HP OpenView AssetCenter

ソフトウェアバージョン:5.0

ファイナンス



ビルド番号:360

法的制限事項

保証

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品またはサービスに付帯する明示的保証条項でのみ規定されます。

本規定のいかなる部分も、他の保証を構成すると解釈されるものではありません。 HPは本書の技術上または編集上の誤謬、欠落についての責任は負わないものとします。 本書に含まれる内容は、予告なく変更される場合があります。

限定保証条項

機密コンピュータソフトウェア

所有、使用、コピーには、HPによる有効なライセンスが必要です。

FAR12.211および12.212準拠。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアマニュアル、技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づき、米国政府にライセンス供与されています。

著作権

(c) Copyright 1994-2006 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

- Adobe®, Adobe Photoshop® and Acrobat® are trademarks of Adobe Systems Incorporated.
- Corel® and Corel logo® are trademarks or registered trademarks of Corel Corporation or Corel Corporation Limited.
- Java™ is a US trademark of Sun Microsystems, Inc.
- Linux is a U.S. registered trademark of Linus Torvalds
- Microsoft®, Windows®, Windows NT® and Windows® XP are U.S. registered trademarks of Microsoft Corporation.
- Oracle® is a registered US trademark of Oracle Corporation, Redwood City, California.
- UNIX® is a registered trademark of The Open Group.

目次

はじめに	9
ファイナンスモジュールの対象ユーザ	9
1. 金額値	11
通貨	11 13 14 16 18
2. 経費	21
経費の概要	21 26 31 31 34
3. 固定資産を関連付ける	39
AssetCenterデータベースの資産と固定資産の関連付けについて	39

固定資産の詳細情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	40
4. 税金	43
税金管理が必要な分野	43
概念と実用例	44
税金の計算式を適用する	48
場所に応じて税金を指定する	49
賃貸料の税金の計算方法を指定する	51
調達サイクルで税金を使う	55
5. TCO (総所有コスト)	57
概要	57
TCO計算の実装	59
AssetCenterでTCOを表示する	63
TCOに含まれる経費明細の生成	67
6. 経費付替え	73
前提	73
概要	73
経費付替えシステムの作成	74
参照コストセンタとコストカテゴリを必須フィールドにする	75
未解決の経費付替えイベントの処理	75
経費付替え規則のトリガのスケジューリング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	76
実用例1 - コンピュータのインストールおよび移設作業の経費付替え	77
実用例2 - 経費付替えの分割	84
実用例3 - スケジューリングされた経費付替え規則のトリガ実行	87
7. 用語解説	91
経費.....................................	91
減価償却	96
税金	97
TCO	98
経費付替え、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	98
インデックス 1	۱۸1

図の一覧表

2.1.	予算 - 構成	要素 .												22
2.2.	予算 - 一覧	表												23
2.3.	予算センタ	- 構造												24
2.4.	予算センタ	と予算	- X	分										25
2.5.	コストセン	夕間の	分割	則奴	맻									34
5.1.	TCO計算 - E	引付含む	ì.											64

表の一覧表

4.1. 税金の自動処理										56
5.1. TCO - 必要モジュール .										59

はじめに

ファイナンスモジュールの対象ユーザ

AssetCenterのファイナンスモジュールは、主に経費を追跡管理する会社などの組織を対象としています。

一般的に以下の従業員がこのモジュールを使用します。

- 財務の責任者
- 管理者

ファイナンスモジュールの使用目的

ファイナンスモジュールでは以下のタスクを実行できます。

- 予算の作成
- 経費のトラッキング
- 固定資産のトラッキング
- 社内振替の管理

タスクの管理では以下の操作を実行できます。

- 資本の支出内容を確認する
- コストを削減する

本マニュアルの使用方法

金額値の章

通貨と為替レートを使用する

経費の章

予算に応じて経費をトラッキングする

固定資産を関連付けるの章

固定資産をトラッキングする

税金の章

キャッシュフローへ税金を統合する

TCO(総所有コスト)の章

TCOを使用する

経費付替えの章

AssetCenterで経費付替えを自動化する

用語解説の章

ファイナンスモジュール用の用語は専門的です。用語集ではAssetCenterのキーワードが説明されています。

この用語集で用語の意味を確認してください。

1 金額値

金額を入力するときに通貨を選択できます。ただし、使用する通貨と通貨間の為 替レートをAssetCenterで事前に定義しておく必要があります。

AssetCenterは、複数の通貨で換算額を表示できます。

AssetCenterでは、金額値の複数通貨を管理するために次の機能をサポートしてい ます。

- 通貨の定義
- 為替レートの定義
- 金額フィールドの入力(AssetCenterは自動的に換算額を計算します)。

通貨

通貨は、なるべくAssetCenterの導入時に予め定義しておいてください。

通貨のテーブルを表示するには、ナビゲーションバーの「ファイナンス / 通貨 / 通貨1リンクを選択します。

通貨の詳細には、通貨の定義に役立つ3つのフィールドがあり、そこで名前、説 明、記号を指定します。

通貨の詳細画面の2つのフィールドでは、金額のフォーマットの規則を定義しま す。

■ [桁数](SQL名:sPrecision)フィールドでは、少数点以下の桁数を定義しま す。

「記号の位置 1 (SQL名: seSymbolPos) フィールドでは、通貨記号の位置が 金額の前か後かを指定します。

特殊な通貨

通貨は必要な数だけ定義できます。一部の通貨には特殊な規則が適用されます。

- デフォルトの通貨
- 基本通貨
- _ ______

デフォルトの通貨

通貨を指定しないで金額を入力すると、必ずデフォルトの通貨が適用されます。 デフォルトの通貨は1種類です。通貨の詳細画面の「デフォルトの通貨] (bDefCur) チェックボックスをオンにすることによって選択できます。

従業員ごとにデフォルトの通貨を指定するには、従業員の詳細画面の「ファイナ ンス] タブページにある [デフォルトの通貨] (SQL名: DefCurrency) フィール ドを使います。この通貨が従業員の新しいデフォルトの通貨になります。

通貨を指定しないで金額を入力すると、ユーザの詳細画面の「プロファイル」タ ブでデフォルトの通貨が定義されていない場合は、データベースレベルで定義さ れたデフォルトの通貨が適用されます。

基本诵貨

換算するときに使う2種類の基本通貨を定義できます。

基本通貨を定義するには、通貨の詳細画面で「基本通貨1](bRefCur1)または「基 本通貨2 1 (bRefCur2)チェックボックスをオンにします。



● 警告:

基本通貨は、なるべくAssetCenterデータベースにデータを保存する前に定義して ください。実際に、データベースにレコードを保存してから基本通貨を定義して も、そのレコードの金額の換算額は更新されません。

ユーロ

ユーロゾーン内の通貨間で換算する場合は、ナビゲーションバーの「ファイナン ス/通貨/通貨]リンクによって「ユーロ」を指定する必要があります。

♂ 重要項目:

ユーロの「名前] (SQL名: Name)フィールドの値は「EUR」に設定する必要が あります。

為替レート

為替レートのテーブルにアクセスするには、[ファイナンス / 通貨 / 為替レート] リンクを選択します。

為替レートには、以下の情報が統合されています。

- レートの適用開始日
- 元の通貨
- 換算通貨
- 換算額
- 逆為替レート
- 換算通貨がユーロゾーンに属するかどうか

為替レートを入力する

為替レートは、必要に応じて入力できます。関連情報を記載したファイルをインポートすることもできます。

逆為替レート

通貨Aから通貨Bへの為替レートを入力すると、AssetCenterはBからAへの逆為替レートを自動的に計算します。

為替レートをわずか(1%以下)に変更した場合は、AssetCenterは逆為替レートを 再計算しません。このため、正確を期すためには逆為替レートを調整する必要が あります。

為替レートを大幅(1%を上回る)に変更した場合は、AssetCenterは逆為替レートを再計算します。

例

2つの通貨AとBの為替レートは2です。逆為替レートは、AssetCenterが自動的に計算し、0.5になります。

- 逆為替レートをわずか(1%以下)に変更した場合の例 逆為替レート=0.505 為替レートは変更されません。
- 逆為替レートを大幅(1%を上回る)に変更した場合の例 逆為替レート=0.51 為替レートは次のように再計算されます。AからBへの為替レート=1.960784

ユーロゾーンの場合

1999年1月1日のユーロゾーンの導入は、為替レートに多大な影響を及ぼしています。ユーロゾーン内では次の為替レートのみが承認されます。

ユーロからユーロゾーン内の通貨への為替レート

AssetCenterでは、ユーロゾーン内の通貨に効力がある為替レートの特定性を管理できます。為替レートの詳細画面の [ユーロゾーンに含める] (blnEuroZone) チェックボックスをオンにすると、次のようになります。

- [元の通貨](SQL名: SrcCurrency)フィールドには「EUR(ユーロ)」と表示されます。これは変更できません。
- [換算通貨] (SQL名: TargetCurrency) にはユーロゾーン内の通貨しか入力できなくなります。
- ユーロからユーロゾーン内の通貨への為替レートを入力できます。逆為替レートは入力できません。

♂ 重要項目:

ユーロの導入に伴い、ユーロゾーン内の通貨からユーロへの為替レートは無効になります。ユーロからユーロゾーン内の通貨への為替レートのみが使用されます。

■ ユーロゾーン外の通貨とユーロとの為替レートおよび逆為替レート

♂ 重要項目:

ユーロの導入に伴い、ユーロゾーン外の通貨とユーロゾーン内の通貨 (ユーロ以外)との為替レートは無効になります。

■ ユーロゾーン外の通貨間の為替レート

ヒント

2つの通貨の為替レートを容易に算出し、換算に使う値を容易に決定するために、 2つの通貨AとBの為替レートは常に同じ方向で入力することをお奨めします。

金額フィールドの編集

金額フィールドの例: [ファイナンス / 経費明細] リンク。経費明細の詳細、 [貸方] (SQL名:mCredit) フィールド。

金額と通貨を入力する

Windowsクライアント

- 1 金額フィールドの編集ゾーンの内側にカーソルを置きます。
- 2 金額を入力し、その金額に対応する通貨を指定します。
 金額フィールドの右にある園をクリックして、通貨を選択します。

≠ 注意:

通貨を指定しない場合は、デフォルトの通貨が適用されます。

♥ ヒント:

「オブジェクトの設定 1 ポップアップメニューを選択すると、各金額フィールド ごとにデフォルトの金額と通貨を指定できます。

金額を入力する専用のコントロールを使うことができます。このコントロール は、通貨の詳細画面で定義したフォーマットによって変わります。

金額の右の矢印またはキーボードの矢印キーを使って、カーソルを置いている フィールドの数値を増減できます。

Webクライアント

- 1 金額フィールドの編集ゾーンの内側にカーソルを置きます。
- 2 金額を入力し、金額の右側にあるドロップダウンリストから通貨を選択しま す。

🌽 注意:

通貨を指定しない場合は、デフォルトの通貨が適用されます。

「換算通貨」ポップアップメニュー



この機能はWindowsクライアントのみで使用できます。

以下の手順で、ある通貨で入力した金額を別の通貨に換算できます。

- 1 金額フィールドでマウスの右ボタンをクリックします。
- 2 ポップアップメニューから、「換算通貨]を選択します。
- 3 リストから適切な換算通貨を選択します。
- 4 金額が換算され、選択した換算通貨で表示されます。

計算方法は、換算方法と同様です。換算日は、金額を換算する日付です。為替 レートはAssetCenterが自動的に選択します。

詳しくは、▶通貨の換算規則「献 16]を参照してください。

金額フィールド



● 警告:

この機能はWindowsクライアントのみで使用できます。

- SQL名「mXXX」の金額フィールドは特定のウィンドウ内に表示され、入力さ れた金額を保存します。
 - 金額フィールドには、次の4つの従属フィールドがあります。
- SQL名「XXXcur」のフィールドは、金額の通貨を含みます(圓をクリックしま す)。
- SOL名「mXXXRef1」と「mXXXRef2」の2つのフィールドは、2つの基本通貨で 換算額を保存します(■をクリックします)。
- SQL名「dtXXXCv」のフィールドは、換算日を保存します(圖をクリックしま す)。

例:資産の購入価格が10000円、換算日が2006年10月1日の場合は、次のようにな ります。

- 「mPrice]フィールドには10000が入ります。
- [PriceCur] フィールドにはJPYが入ります。
- 「mPriceRef1]と「mPriceRef2]フィールドには換算額が入ります。
- 「dtPriceCv] フィールドには2006年10月1日が設定されます。

通貨の換算規則

ある通貨で表された金額を別の通貨に換算するには、換算時に適用される為替 レートが必要になります。

ここでは、換算の規則と為替レートについて説明します。換算規則は、換算する 通貨によって異なります。

ユーロゾーンの特異性

通貨Aで表された金額をユーロゾーン内の通貨Bに換算するには、次の手順が必須 です。

- 1 金額をユーロに換算します。
- 2 次に、ユーロで表された金額を通貨Bに換算します。

為替レートを事前に入力しておくと、AssetCenterは、適切な計算規則に従って上 記の一連の換算処理を自動的に行います。

両方の通貨がユーロゾーンに属する場合

通貨Aと通貨Bの両方がユーロゾーンに属しており、Aの金額をBに換算する場合は、次のように処理されます。

- 1 AssetCenterは、次のようにして通貨Aの金額をユーロに換算します。
 - ユーロから通貨Aへの換算レートによる除算を行います。
 - 小数点以下第3位を四捨五入します。
- 2 次に、AssetCenterは、ユーロの金額を通貨Bに換算します。
 - ユーロから通貨Bへの換算レートを適用します。
 - 通貨Bの詳細フィールドに指定されている桁数に従って、値を四捨五入します。

どちらかの通貨がユーロゾーンに属する場合

換算通貨がユーロゾーンに属する場合

ユーロゾーン外の通貨Aの金額をユーロゾーン内の通貨Bに換算する場合は、次のように処理されます。

- 1 AssetCenterは、次のようにして通貨Aの金額をユーロに換算します。
 - 通貨Aからユーロへの換算日現在の為替レートまたはユーロから通貨Aへの 逆為替レートを適用します。
 - 小数点以下第3位を四捨五入します。
- 2 次に、AssetCenterはユーロの金額を通貨Bに換算します。
 - ユーロから通貨Bへの換算レートを適用します。
 - 通貨Bの詳細フィールドで指定されている桁数に従って、結果を四捨五入します。

元の通貨がユーロゾーンに属する場合

ユーロゾーン内の通貨Aの金額をユーロゾーン外の通貨Bに換算する場合は、次のように処理されます。

- 1 AssetCenterは、次のようにして通貨Aの金額をユーロに換算します。
 - ユーロから通貨Aへの逆為替レートを適用します。
 - 小数点以下第3位を四捨五入します。
- 2 次に、AssetCenterはユーロの金額を通貨Bに換算します。
 - ユーロから通貨Bへの換算レートを適用します
 - 通貨Bの詳細フィールドで指定されている桁数に従って、値を四捨五入します。

ユーロゾーン外の通貨

指定した1組の通貨(AとB)間の適切な為替レートを選択するために、AssetCenter では換算日と次の規則を使います。

- Aが元の通貨、Bが換算通貨(結果)の場合で、換算日付けの為替レートが定 義されている場合は、AssetCenterはこのレートを使います。
- Bが元の通貨、Aが換算通貨の為替レートが定義されている場合は、AssetCenter はこのレートに対して定義された逆為替レートを使います。逆為替レートは、 BからAへの為替レートの「1A=xBlフィールドに表示されます。
- 上のいずれにも該当しない場合は、換算されません。

例

- 通貨Aから通貨Bへの2006年7月1日現在の為替レートは、「1A=6B]です。
- 通貨Bから通貨Aへの2006年8月1日現在の為替レートは、「1B=0.2A]です。
- 20069月1日現在で100Aを通貨Bに換算する場合、AssetCenterでは為替レート 「1A=6B] が適用され、金額は600Bになります。

換算

ここでは、次の事項について説明します。

- ■概要
- 換算日
- 更新

概要

金額を入力すると、AssetCenterは基本通貨の金額に自動的に換算します。 換算額は、次の値から自動的に計算されます。

- 換算日
- 入力した会額の通貨単位と基本通貨の換算日現在の為替レート

換算額の表示



この機能はWindowsクライアントのみで使用できます。

金額フィールドの右の圖アイコンをクリックすると、換算日、金額、換算額を示 す画面が表示されます。

換算日

換算日によって為替レートが決まります。

換算日はSQL名「dtxxxCv」のフィールドに保存され、各金額に関連付けられま

デフォルトの換算日を関連付けると、金額を定義する時点でこのフィールドに自 動的にデフォルト値が入力されます。この結果、資産の購入価格の換算日を確実 にこの資産の購入日にするなどの処理が可能になります。

デフォルトでは、金額の換算日は現在の日付になります。金額に関連付けられる 換算日のデフォルト値は、AssetCenter Database Administratorを使って定義しま す。

金額を更新する

不適切な換算額を手動で変更した後に金額を変更すると、変更された換算額は失 われます。

以下の場合AssetCenterはデータベースに格納された換算額を更新します。

- 為替レートが変更された場合
- 換算日がスクリプトで計算され、スクリプトに使うフィールド値が変更され た場合

AssetCenterには、以上の変更を自動的に換算額に反映する機能はありません。 自動的に変更するように設定するには、ワークフローのワークフローチャート機 能を使います。

複数诵貨の機能を限定する

複数の通貨を定義するすべての機能を使う必要のない場合は、次の2通りの使い 方ができます。

- 通貨を定義しない。この場合は次のようになります。
 - 金額には通貨単位が付きません。
 - 金額のフォーマットは、Windowsのコントロールパネル (Windows XPの場 合「地域と言語のオプション)ツールの「地域オプション)タブ)で定義 されているフォーマットが採用されます。金額を入力するために専用のコ ントロールが設計されます。
 - データベースでは、金額フィールドに関連する4つのフィールド(通貨、2) つの換算額、換算日)は空になります。
- 基本通貨を定義しないで通貨を作成します。この場合は次のようになります。
 - 通貨ごとに異なるフォーマットの規則を定義できます。

■ データベースレベルでは、金額情報用の5つのフィールドのうち、金額と 通貨のフィールドだけに値が入り、他の3つのフィールド(2つの換算額と 換算日のフィールド)は空になります。

2 経費

本章では、AssetCenterで経費を管理する方法について説明します。

経費の概要

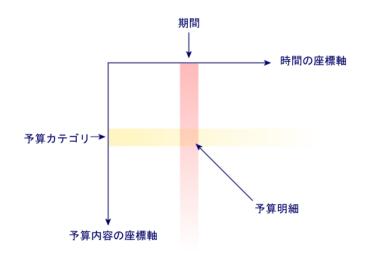
本節では経費管理に関連する概念を説明します。

予算

予算は、一定期間 (一般的に翌年)の収入と支出を各予算カテゴリごとに計画したものです。このため、予算は以下の2つの座標軸から成り立っています。

- 1 時間の座標軸。各企業の予算追跡または予算報告の規則に応じて区切られます(半年、四半期、1月ごとなど)。
- 2 予算カテゴリ(または予算科目)用の予算内容の座標軸。各企業の予算カテゴリに応じて区切られます。

図 2.1. 予算 - 構成要素



≠ 注意:

予算は以下の要素を含む表と見なされます。

- 1期間に対応する列(第1四半期、第2四半期、など)
- 1予算カテゴリに対応する行(例:社内出張、社外出張、コンサルティング、 など)
- 1予算明細に対応する金額を含むセル(例:第1四半期の出張用の予定金額は 100万円)。予算明細の金額は会計では引当金と呼ばれており、支給する予定 額を指します。

会社組織での必要に応じて以下の概念も使用されています。

- 予算内容の座標軸上
 - 予算カテゴリは1つまたは複数のコストカテゴリから構成されています。 上記の例を取ると、予算カテゴリ「社内出張」には、「国内での社内出 張」、「海外での社内出張」などのコストカテゴリが含まれます。
 - 予算分類は、複数の予算カテゴリから構成されています。例えば、予算分類「出張」には、「社内出張」、「社外出張」などの予算カテゴリが含まれます。

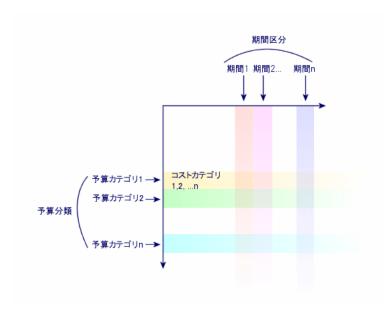
ቓ 注意:

予算分類が、予算カテゴリを介して全部のコストカテゴリをまとめるようにすることをお勧めします。予算分類に入らないコストカテゴリがあると、予定された収入や支出の一部が予算内に含まれなくなります。 AssetCenterは、全コストカテゴリが予算分類に含まれているかどうかを点検しません。

期間の座標軸上

- 1期間区分は、各企業が定義する「期間」をまとめたものです。
- 1会計年度は複数の期間区分をまとめます。一般的に1年の期間に相当します。

図 2.2. 予算 - 一覧表



企業では、予算は1年間の会計年度ごとに定義されるのが一般的です。この各年度予算をまとめる組織体は、予算センタと呼ばれます。予算センタは多くの場合企業内の部署に相当します。

図 2.3. 予算センタ - 構造

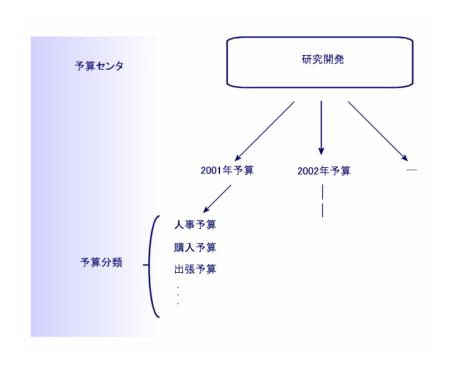
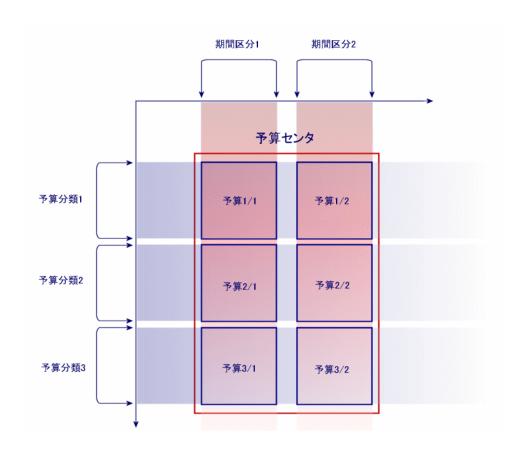


図 2.4. 予算センタと予算 - 区分



予算センタの概念はコストセンタに比較することができます。予算センタが統括 する期間は未定ですが、予算センタに含まれる要素は、それぞれ一定の期間に直 接関連付けられています。

コストセンタ

コストセンタは、企業の各部署の経費全体をまとめ、管理するために使用されます。

予算管理を実行する場合、各コストセンタは予算センタに属する必要があります。

予算

本節ではAssetCenterでの予算の使用方法を説明します。

インプリメンテーション方法

ここでは、AssetCenterで予算システムを導入する方法を説明します。各企業の特性に応じて別の方法を取ることも可能ですが、その場合には以下の点に注意してください。

- 予算管理用の全構造要素を作成する必要があります。期間の座標軸の要素(会計年度、期間区分、期間)と、予算内容の座標軸の要素(予算分類、予算カテゴリ、コストカテゴリ)を作成します。
- 各予算分類には、定義されたコストカテゴリ全でが含まれていなければなりません。

ここで説明する導入方法では、以下の手順に従います。

- 期間の座標軸に関連する情報を、以下の順番で作成します。
 - 1 会計年度
 - 2 期間区分
 - 3 期間
- 予算内容の座標軸に関する情報を、以下の順番で作成します。
 - 1 コストカテゴリ
 - 2 予算分類
 - 3 予算カテゴリ
- 予算センタを作成します。
- 予算を作成します。

実用例

この例では、ソフトウェアのデザインを手がける会社Softwareが、会社の研究開発部にAssetCenterによる予算管理を導入する方法を説明します。この会社での規則に従って、期間区分を以下の様に指定します。

- 1期間は1四半期に当たります。
- 期間区分は1年に当たります。
- 会計年度は現在の会計年度とします。

この例では以下の状況に従って「出張」用の予算を作成します。

- 日本国内の出張と海外への出張がある。
- 日本国内では、大阪と札幌への出張がある。 海外では、ロンドンとパリへの出張がある。

この状況に基づいて、以下の情報を入力します。

- 基本のコストカテゴリ:大阪出張、札幌出張、ロンドン出張、パリ出張
- 予算カテゴリ:国内出張(これは大阪と札幌の出張をまとめます)、海外出張(これはロンドンとパリの出張をまとめます)。
- 予算分類は「出張」になります。

上記を作成した現時点で、AssetCenterでの予算システムの導入が可能になります。

期間の座標軸の作成

この段階では、会計年度、期間区分と、期間を作成します。作成には以下の手順に従います。

- 1 会計年度を表示します (ナビゲーションバーの [ファイナンス / 会計年度] リンク)。
- 2 「新規作成] をクリックし、以下の値を入力してレコードを作成します。

フィールド	值
名前	2006年会計年度
開始	2006年1月1日
終了	2006年12月31日

- 3 作成を確定にします (Windowsクライアントの [作成] ボタンまたはWebクライアントの [保存])。
- 4 [期間区分]タブを選択します。上記で作成した会計年度には期間区分が含まれていません。
- 5 作成した会計年度に期間区分を会計年度に追加します(Windowsクライアントの■ボタンまたはWebクライアントの「追加])。
- 6 期間区分の「名前]に値2006を入力します。
- 7 期間区分を追加します (Windowsクライアントの [追加]ボタンまたはWebクライアントの [**OK**])。
- 8 会計年度に行った変更事項を保存します(Windowsクライアントの[変更] またはWebクライアントの[保存])。
- 9 会計年度の詳細画面の[期間区分]タブに期間区分2006の詳細を表示します。
- 10 次に、期間区分に関連付けられた期間を作成します。実用例のデータによると、これらの期間は四半期に相当するので、4つの異なる期間を作成します。
- 11 「期間]タブを選択します。
- 12 期間を追加します (Windowsクライアントの■ボタンまたはWebクライアントの [追加])。
- 13 以下のフィールドに入力します。

フィールド	值
名前	第1四半期
開始	2006年1月1日

- 14 期間を追加します (Windowsクライアントの [追加]ボタンまたはWebクライアントの [**OK**])。
- 15 上記の手順9から11を繰り返して、第2四半期、第3四半期、第4四半期を作成 します。
- 16 これで予算の期間座標軸の作成が完了しました。

予算内容の座標軸の作成

ここでは、予算を構成する3つの要素であるコストカテゴリ、予算カテゴリ、および予算分類を作成します。以下の手順に従うと、段階的に作成することができます。

- 1 コストカテゴリを表示します(ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/コストカテゴリ]リンク)。
- 2 4つのコストカテゴリ、「大阪出張」、「札幌出張」、「ロンドン出張」、および「パリ出張」を作成します。
- 3 予算分類を表示します(ナビゲーションバーの[ファイナンス/予算分類] リンク)。
- 4 「出張」という名前の新しいレコードを作成します。
- 5 「予算カテゴリ] タブで、作成した分類に予算カテゴリを追加します。
- 6 [名前]に「国内出張」と入力し、[追加]をクリックします。
- 7 予算カテゴリを追加します(Windowsクライアントの[追加]ボタンまたは Webクライアントの[**OK**])。
- 8 予算分類の画面に戻り、変更事項を確定にします(Windowsクライアントの「変更」ボタンまたはWebクライアントの「保存」)。
- 9 予算カテゴリのリストで「国内出張」を選択し、詳細を表示します。
- 10 次に[コストカテゴリ]タブを選択し、■をクリックして「大阪出張」と「札幌出張」を1つずつ追加します。[変更]をクリックして変更事項を確定します。
- 11 手順5から8を繰り返して、「海外出張」予算カテゴリを作成し、「パリ出張」と「ロンドン出張」コストカテゴリをこの予算カテゴリに追加します。
- 12 これで予算の予算内容の座標軸の作成が完了しました。

予算センタの作成

この段階では、「研究開発部」予算センタを作成します。以下の手順で、段階的に作成することができます。

- 1 予算センタを表示します(ナビゲーションバーの[ファイナンス/予算センタ]リンク)。
- 2 [新規作成]をクリックし、[名前]フィールドに「研究開発部」と入力し、 [作成]をクリックします。

- 3 「作成] をクリックして新規レコードを作成します。
- 4 [コストセンタ]タブをクリックして、コストセンタを追加します(Windows クライアントの●ボタンまたはWebクライアントの[追加])。このコストセンタの経費は、[研究開発部]予算センタに割り当てられます。AssetCenterのデモ用データベースのデフォルトである[事業部]コストセンタを選択してから、選択を確定します(Windowsクライアントの[選択]ボタンまたはWebクライアントの「追加]ボタン)。

予算の作成

ここでは、実用例の予算「出張」を作成します。以下の手順に従うと、段階的に 作成することができます。

- 1 [研究開発部]予算センタの詳細画面で、[予算]タブをクリックして、予算を追加します(Windowsクライアントの●またはWebクライアントの[追加])。
- 2 以下の値を予算用に入力します。

フィールド	值
名前	職務出張
期間区分	2006年会計年度
分類	出張

- 3 予算を追加します (Windowsクライアントの [追加]ボタンまたはWebクライアントの [OK])。
- 4 これで予算が作成されました。次に、予算明細(各予算科目と各期間の予測される収入と支出)を入力します。追加したい予算の詳細画面を表示します。「職務出張」予算の詳細画面で[明細]タブを選択します。
- 5 2006年会計年度の支出を予測して、2つの予算カテゴリ「国内主張」と「海外出張」に引当金を割り当てます。予算に明細を追加します(WindowsクライアントのNHボタンまたはWebクライアントの[追加])。
- 6 必須フィールドに値を入力し、必要な分だけ予算明細を作成します。この例では、[期間]フィールドに「第1四半期」、「第2四半期」、「第3四半期」、「第4四半期」と入力し、[予算カテゴリ]フィールドに「国内出張」と「海外出張」、[名前]フィールドに予算明細を識別するための名前を入力します。名前は予算カテゴリと同名でも構いません。[引当金]用に金額も入力します。



予算には[ステータス]フィールドがあり、「準備中」、「承認済」と「クローズド」のいずれかを指定できます。しかしこの値はあくまでも参考用であり、AssetCenterの自動処理機能には関連付けられていません。

7 Windowsクライアントでは(Webクライアントではなく)、この段階で予算の 画面の[トラッキング]をクリックすると、予算を把握することができます。 表示されるウィザードには、入力した予算明細の要約と、実行された引当金 のグラフが示されます。

予算のトラッキング

AssetCenterに予算構造が導入された後、予算枠内で支払われた経費のトラッキングを実行できます。

■ 理論上では、全ての出費は経費明細として作成されます。

≠ 注意:

調達サイクルや経費付替えなどのAssetCenterの自動処理機能では、経費の作成、変更または分割が実行されます。詳細については、調達サイクルを説明するマニュアル(『調達』『契約』)、または本マニュアルの「経費明細「献 31」の節を参照してください。

- 経費明細には以下の内容が含まれます。
 - 金額
 - 支出日。この支出日から経費の「期間」が分かります。
 - コストカテゴリ。ここから経費の「予算カテゴリ」が分かります。
 - 経費の配賦先コストセンタ
 - 経費のステータス(「見積済」、「発生済」、「発生済みおよび変更不可」)

これらの情報により、経費が関連付けられている予算や予算明細が分かります。

■ Windowsクライアントでは(Webクライアントではなく)、予算の詳細画面で [トラッキング]をクリックすると、ウィザードを表示できます。ウィザー ドには、経費と予算の引当金との関係を集計するグラフが表示されます。こ のグラフは、ウィザードを全画面表示しないと表示されません。

トラッキングの例

前期の例に従って3つの経費明細を手動で作成します。

- 1 経費明細を表示します(ナビゲーションバーの[ファイナンス/経費明細] リンク)。
- 2 以下の情報を入力して3つの経費明細を作成します([タイトル]フィールドには自由に入力します)。

フィールド	経費明細1	経費明細2	経費明細3
借方	4000	2000	950
支出日	200610年31日	2006年6月25日	2006年1月12日

フィールド	経費明細1	経費明細2	経費明細3
コストセンタ	事業部	事業部	事業部
コストカテゴリ	ロンドン出張	大阪出張	札幌出張
ステータス	発生済および変 更不可	発生済	見積済

- 3 既に「職務出張」予算用に引当金が割り当てられています。各期間(この例では四半期)と各予算カテゴリ(「国内出張」と「海外出張」)にそれぞれ 経費明細を作成したかどうかを確認します。
- 4 この予算の詳細画面に戻り、[トラッキング]ボタンをクリックします。ウィザードは予測された経費と実際の経費をグラフで表示します。

コストセンタ

コストセンタを使って経費明細を分類することができます。コストセンタは広義 に解釈してください。

AssetCenterのコストセンタは、経費(現金流出)をトラッキングするためのもので、会計用語に厳密に準拠するわけではありません。

コストセンタを使って、資産の取得とメンテナンス、従業員の研修、メンテナンスの費用、保険、リース契約などに関連する様々な経費を分類できます。

≠ 注意:

各コストセンタにはコードが付いており、他のアプリケーションのデータベースとのインポートまたはエクスポート時に、識別キーの役割を果たします。

経費明細

経費明細のリストを表示するには、ナビゲーションバーの[ファイナンス / 経費明細]リンクを選択します。または、コストセンタの[経費]タブで、そのコストセンタの経費明細を表示できます。

Windowsクライアントでは(Webクライアントではなく)、経費明細のリストによって借方および貸方の総額を計算するには、リストの左下隅にある■をクリックします。

リース契約の新規賃貸料や、新規の分割処理などが発生するとAssetCenter Server モニタプログラムは自動的に経費明細を作成します。

₫ 重要項目:

経費明細が自動的に作成された場合、[ステータス](SQL名:seStatus)フィールドは[発生済および変更不可]にはなりません。これ以外のステータスの明細を検索すれば、自動的に作成され、まだ有効になっていない経費明細を確認できます。

以下の操作を実行する場合には、これにより発生するコスト(経費)を指定する 必要があります。

- 資産の取得
- 作業指示、メンテナンス作業
- 契約

経費明細を、コストを伴う構成要素(資産、契約など)に関連付ける手順は以下 の通りです。

- 1 企業のコストを生じる要素(資産、契約など)の詳細画面を表示します。
- 2 「コスト] タブを選択します。
- 3 経費明細を追加します(WindowsクライアントのHボタンまたはWebクライアントの[追加])。

経費明細の詳細画面

経費明細の「全般」タブには、次の情報が表示されます。

- [借方] (SQL名: mDebit) および[貸方] (SQL名: mCredit) フィールド。 [貸方]に金額を入力すると、[借方]は0になり、また[借方]に金額を入 力すると、[貸方]は0になります。
- [ステータス] (SQL名: seStatus)。経費明細には、[発生済]、[発生済 および変更不可]、[見積済]のステータスがあります。

経費明細が自動的に作成された場合、このフィールドは [発生済および変更不可] には設定されません。これにより、自動的に作成された経費明細を管理し、特定の明細のみの作成を有効にすることができます。

[コストセンタ] (SQL名: CostCenter) リンクは、コストセンタに経費明細を割り当てます。

経費明細を作成する

経費明細は、次のように様々な方法で作成できます。

経費明細のリストで[新規作成]をクリックすると、経費明細を手動で作成できます。この場合、この経費明細の原因となる操作を指定する必要があります。

自動作成

経費を伴うイベントが発生すると、経費明細が経費明細のテーブルに自動的に作 成されます。

経費明細の金額は、指定された情報から自動的に計算されます。

経費明細の「ステータス)は、「見積済)または「発生済)に設定されます。

AssetCenter Serverにより自動的に作成

AssetCenter Serverは、次の支払に関連する経費明細を自動的に作成します。

- 契約または資産に関する定期的な賃貸料の支払
- 契約の資金繰りのために使用したローンの返済
- 経費明細の分割処理
- 経費の付替え

経費明細の金額は、契約と資産の詳細画面の賃貸料およびローンのサブタブペー ジに指定されている情報に基づいて自動的に計算されます。

AssetCenter Serverでは、分割処理規則と経費付替え規則に応じて経費明細、他の コストセンタへの分割処理明細および経費付替え明細が自動的に作成されます。

経費明細を変更する

経費明細の作成後に経費に関する情報の一部を変更し、経費明細がまだ有効化さ れていない(経費明細の詳細画面の「ステータス](SQL名:seStatus)フィール ドが「発生済および変更不可)に設定されていない)場合は、この変更を適用で きます。経費明細が有効になっている場合は、レコードを変更できません。

作成後に経費明細を変更しても、経費明細の発生元のレコード(契約など)の詳 細情報は変更されません。

経費明細を分割した場合の影響

- 経費明細「L」が別の経費明細の分割によって発生した経費明細の場合は、経 費明細「L」の金額を手動で変更しても、次の経費明細には影響しません。
 - 経費明細「L」の分割によって発生した経費明細
 - 経費明細「L」の発生元の経費明細



♥ 警告:

コストセンタが削除された場合などにAssetCenter Serverにより経費明細が自 動的に再計算されると、手動で加えた変更は失われます。

■ 経費明細が他の経費明細の分割処理によって発生した経費明細でない場合は、 その金額を変更すると、その経費明細の分割によって発生した経費明細にも 変更が加えられます。

コストセンタ間での分割処理

ここでは、AssetCenterによるコストセンタ間での分割処理の方法を説明します。

分割処理の概要

1つの経費明細を、複数のコストセンタで分担できます。

経費明細を分割するには、その明細を1つの中間コストセンタに割り当てます。この中間コストセンタは、分割した経費の割り当て先のコストセンタのリストと、各コストセンタに割り当てられる経費のパーセンテージを定義します。

指定したコストセンタで段階的に分割処理を実行できます。例えば、コストセンタC1をC2とC3に分割し、C3をさらにC4とC5に分割できます。

分割処理後のコストセンタを区別するために、分割する前の元のコストセンタは「分割前のコストセンタ」、分割後の各コストセンタは「現在のコストセンタ」と表示されます。

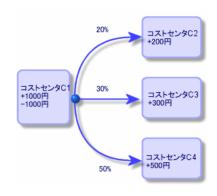
経費明細は、AssetCenter Serverによって分割されます。

AssetCenter Serverは、分割対象の経費明細を検索し、分割を行います。経費明細をモニタする頻度は、AssetCenterServerオプションで定義します。

経費明細は、次のようにして分割されます。

- 分割前のコストセンタ内に分割された経費明細が作成されます。
- 分割のパーセンテージに従って、従属コストセンタ内に経費明細が作成されます。

図 2.5. コストセンタ間の分割処理



経費明細の分割を自動化する

経費明細を正しく分割するには、次の手順に従います。

- 1 AssetCenter Serverを起動します。
- 2 データベースに接続します。
- 3 「ツール/モジュールの設定] メニューを選択します。
- 4 [コストセンタの経費を分割する(CostCenter)]モジュールを選択します。
- 5 「有効 1 ボックスをオンにします。
- 6 マニュアル『管理』の「AssetCenter Server」の章、「AssetCenter Serverでモニタするモジュールを設定する/コストセンタ(CostCenter)の経費を分割する」の指示に従って、[コストセンタの経費を分割する]のオプションを入力します。
- 7 「閉じる] をクリックします。
- 8 AssetCenter Serverによって、経費明細が自動的に分割されます。

分割処理の詳細設定と計算

コストセンタの詳細画面の [分割処理] タブページに、コストセンタに関連する 分割の説明があります。

分割後の各コストセンタに分割処理明細を指定します。

分割処理明細に、分割処理の開始日、終了日、分割のパーセンテージを指定します。

注意事項

- 分割明細の詳細画面で、開始日は分割期間に入りますが、終了日は入りません。例えば、開始日が2006年1月1日で終了日が2006年4月1日の場合は、分割は2006年1月1日から2006年3月31日まで有効です。
- 指定日時点でのコストセンタの経費のパーセンテージの合計が100 0.1%になるように分割しなければなりません。
- 分割前のコストセンタを、分割後のコストセンタに関連付けられた分割に含めることはできません。

経費明細の計算

- 分割のパーセンテージを適用してから、経費の小数点以下第二位を四捨五入します。
- 丸め誤差は最初の経費明細で相殺されます。

経費明細の金額を変更する場合の注意

- 経費明細「L」が別の経費明細の分割によって発生した経費明細の場合は、経費明細「L」の金額を手動で変更しても、次の経費明細には影響しません。
 - 経費明細「L」の発生元の経費明細

■ 経費明細「L」の分割によって発生した経費明細



コストセンタが削除された場合などにAssetCenter Serverにより経費明細が 自動的に再計算されると、手動で加えた変更は失われます。

■ 経費明細が他の経費明細の分割処理によって発生した経費明細でない場合は、 その金額を変更すると、その経費明細の分割によって発生した経費明細にも 変更が加えられます。

コストセンタを削除する



● 警告:

本節は、Windowsクライアントにのみ該当します。

「オプションヿウィンドウ(「編集/オプションヿ、「編集ヿグループ)で「拡 張削除の許可〕が「はい〕に設定されている場合、割り当てられた経費明細があ るコストセンタを削除できます。削除には以下の3種類の方法があります。

リンクしているすべてのレコードを削除する

コストセンタが削除されると、AssetCenterは次の明細を削除します。

- 削除されたコストセンタの経費明細
- 削除されたコストセンタに関連する分割処理で発生した経費明細



削除されたコストセンタで分割処理が行われ、別の経費明細が発生した場合、 AssetCenterは分割前の元の経費明細の非表示フィールド「分割処理のステータ ス] (SQL名:seSplitStatus)を「未分割」に変更します。

このようにステータスは「未分割」に戻っても、分割により発生した経費明細が まだリンクされている経費明細を検出すると、AssetCenter Serverはそれらのリン クしている経費明細をすべて削除します。それと同時に分割前の「元の」経費明 細も削除します。

次に、AssetCenter Serverは未分割のステータスに戻った経費明細を分割し、新し いパラメータに基づいて再計算します。

リンクしているすべてのレコードを切り離す

この場合は次のようになります。

削除されたコストセンタの経費明細は、切り離したコストセンタとは関連が なくなります。

- 経費明細が、削除されたコストセンタの分割前の元の経費明細の場合は、その経費明細が再分割されます。
- 経費明細が、削除されたコストセンタに関連する分割処理により発生した経費明細の場合は、変更されません。

リンクしているレコードを別のレコードにリンクする

この場合は、削除されたコストセンタに代わるコストセンタXを選択します。

- 削除されたコストセンタの経費明細をコストセンタXに関連付けます。
- 経費明細が、削除されたコストセンタの分割前の元の経費明細の場合は、コストセンタXが新しいコストセンタと見なされ、その経費明細が再分割されます。
- 削除されたコストセンタに関連する分割処理によって発生した経費明細は削除され、コストセンタXの経費明細が分割されます。

固定資産を関連付ける



本章は、Windowsクライアントにのみ該当します。

本章では、AssetCenterデータベースに固定資産を関連付ける方法について説明し ます。

内容は次の通りです。

- 固定資産のAssetCenterデータベースとの照合更新について
- 固定資産の詳細情報

固定資産のリストを表示するには、ナビゲーションバーの[ファイナンス/減価 償却/固定資産]リンクを選択します。

AssetCenterデータベースの資産と固定資産の関連付けについて



● 警告:

本節は、Windowsクライアントにのみ該当します。

ある会社の経理部で、専用の会計ソフトを使って固定資産の詳細情報を管理して いるとします。しかし、会計に紛失した資産や未使用の資産の情報を含んだ最新 の固定資産のリストを反映させることは困難です。会計レコードに処分済の資産 に相当する固定資産が含まれていることはよくあることです。

上記のような会計レコードのファイルを更新するには、物理的に資産を棚卸することが必要です。AssetCenterで資産を棚卸し、その情報を固定資産のリストと関連付けて照合すれば、その相違点を基に会計ファイルを更新することができます。

照合更新がしやすいように、AssetCenterには会計プログラムの固定資産情報を入力するためのテーブルがあります。会計プログラムから固定資産のデータをインポートすると、データベース内の資産情報と関連付けることができます。

AssetCenterには、会計プログラムから取得した固定資産データを棚卸資産に手動で関連付けるウィンドウがあります。

AssetCenterでは、次の3つの方法でデータベース内の資産を固定資産に関連付けます。

- 1つの資産を1つの固定資産に関連付ける
- 1つの資産を複数の固定資産に関連付ける(1つの資産で進行中の作業を管理する場合など)
- 1つの固定資産を複数の資産に関連付ける(複数の資産をまとめて管理する場合など)

AssetCenterデータベース内の資産と会計プログラムから取得した固定資産情報と を関連付けるには、次の手順に従います。

- 1 固定資産の会計ソフトから有効な情報を抽出します(テキストファイルに出力)。
- 2 テキストファイルをAssetCenterの固定資産テーブルにインポートします。
- 3 資産と固定資産を関連付けます。
- 4 「関連付けなし」の固定資産のリストを表示し、印刷します。これらは、資産に関連付けられなかった固定資産です。経理部では、必要に応じてこれらの固定資産をリストから削除できます。
- 5 「一部関連付け」の固定資産のリストを表示し、印刷します。これらは、一部のみ資産に関連付けられた固定資産です。経理部はこれらの固定資産を分解し、関連付けられていない固定資産をリストから削除できます。
- 6 「処分」の固定資産のリストを表示し、印刷します。これらは、処分された 資産にのみ関連付けられる固定資産です。経理部では、これらの固定資産を リストから削除できます。

固定資産の詳細情報



本節は、Windowsクライアントにのみ該当します。

固定資産の詳細画面の情報の多くは、固定資産を管理する外部のソフトウェアア プリケーションからインポートして入力します。 固定資産の詳細画面の上部、および「全般)と「減価償却)タブページのフィー ルドは、他のAssetCenterテーブルにリンクしていません。

AssetCenterデータベースに固定資産のデータをインポートしたら、必要に応じて 次のように詳細情報を入力します。

🌽 注意:

データのインポートについて詳しくは、マニュアル『管理』の「データのイン ポート」の章を参照してください。

- 「全般] タブページのフィールドに入力します。必要に応じて、「固定資産 の会計コード]、[固定資産の取得日]、[導入日]、[レコードの更新 日]、[固定資産の設置場所]、[数量]、[単価]を入力します。
- 「減価償却] タブページのフィールドに入力します。必要に応じて、固定資 産の減価償却のタイプ(会計、技術、年度など)、計算方法(定額、定率、 例外など)、減価償却期間を指定します。
- 固定資産の詳細画面の「資産 1 タブページで、固定資産と資産を関連付けま す。■、■と図のボタンをクリックすれば、固定資産に関連する資産の追加、 削除、表示、変更を行うことができます。
- 固定資産の詳細画面の上部にある「オプション] (SQL名:seOption)フィー ルドに入力します。このフィールドには、次の4つの値のいずれかを入力する ことができます。
 - 関連付けなし:固定資産に資産が関連付けられていないことを示します。
 - 一部関連付け:固定資産に最低1件の資産が部分的に関連付けられている ことを示します。
 - 関連付け済み:固定資産と資産が完全に関連付けられていることを示しま
 - 処分:この固定資産は、固定資産のリストに表示されるべきではないこと を示します。これは、固定資産に対応する資産がもう使用されない場合に 当てはまります。

🌽 注意:

「取得日 1 (SOL名: AcquDate) フィールドと「導入日 1 (SOL名: InstallDate) フィールド(固定資産の詳細画面の「全般]タブページ)に注意してください。 これらの日付は外部のデータベースからインポートされるため、そのデータ型と 保存形式が不明な場合があります。そのため、AssetCenterデータベースにはテキ スト形式で保存されます。

税金

本章では、AssetCenterで税金を処理する場合の様々な計算方法について説明しま す。

税金には次の種類があります。

- 固定
- 計算式で計算する税金

税金管理が必要な分野

AssetCenterでは、次の分野で税金機能が使われています。

契約賃貸料。契約の詳細画面の[賃貸料]タブページの[ファイナンス]サ ブタブページで、 [税金の計算] (SQL名: TaxFormula) 、 [税区分] (SQL 名:TaxJuris)、[税率](SQL名:pTaxRate)、[税額](SQL名: mTaxValue) フィールドに、契約全体の賃貸料の支払額にかかる税金を指定し ます。



「賃貸料] タブページは、契約の詳細画面の [全般] タブページで [タイプ] (SQL名:seType)フィールドが[マスターリース]以外に設定されており、 「支払属性] (SQL名:sePayType) フィールドが「賃貸料] または「両方] (賃 貸料とローンの両方)に設定されている場合のみ表示されます。

■ 資産の賃貸料。資産の詳細画面の[賃貸料]タブページの[ファイナンス] サブタブページで、[税金の計算](SQL名: TaxFormula)、[税区分](SQL 名: TaxJuris)、[税率](SQL名: pTaxRate)、[税額](SQL名: mTaxValue)フィールドに、各資産の賃貸料支払額にかかる税金を指定しま す。

🌽 注意:

[賃貸料]サブタブページは、[取得]タブページの[調達]サブタブページの[取得方法](SQL名:seAcquMethod)フィールドが[レンタル]または[リース]に設定されている場合に表示されます。また、賃貸料が資産単位で比例配分された契約(契約の詳細画面の[賃貸料]タブページ/賃貸料サブタブページ/[賃貸料の比例配分](SQL名:seProrateRule)フィールドで指定)に資産が追加された場合に、自動的に作成されます。

- 税区分
- 場所。 [税区分] (SQL名: TaxJuris) フィールドでは、税率の詳細情報が指定されている税区分テーブルにリンクできます。
- 税金のタイプ
- 経費明細。経費明細の[貸方税額]フィールドと[借方税額]フィールドには、貸方と借方の総額にかかる税金が表示されます。特に、資産ごとまたは契約全体の賃貸料の支払に関連する経費明細には、その賃貸料にかかる税金が表示されます。これらの経費明細は、資産および契約の詳細画面の[コスト]タブページに表示されます。
- AssetCenter Serverモニタプログラム。このプログラムは、契約全体または資産ごとの賃貸料、分割処理、または経費付替えに対応する経費明細を自動的に作成します。各経費明細は、定期的な賃貸料とそれにかかる税金情報で構成されます。
- 調達サイクル (特に依頼、発注、請求)。調達サイクルで発生する税金は、 [明細]タブページに表示されます。税金の詳細情報は、依頼明細、発注明 細、請求明細のいずれかの詳細画面で指定できます。

概念と実用例

本節では、税金を管理する上で使う概念について説明します。

税区分

税区分のテーブルにアクセスするには、ナビゲーションバーの [ファイナンス / 税金 / 税区分] リンクを選択します。

税区分を使うと、場所、税率のタイプ、および税率を組み合わせることができます。税区分の詳細画面では、以下の操作を実行できます。

- 特定の税区分の税率を編集します([税率]タブ)。
- 特定日における税区分の税率を表示します([プレビュー]タブ)。

🌽 注意:

税区分は階層構造になっています。

税率のタイプ

税率のタイプでは、「地方税」など、適用する税金の種類を定義します。 [税率のタイプ]のテーブルには、次に示すいくつかの方法でアクセスできます。

- Windowsクライアントのみ: [管理/画面一覧]メニューを選択する。
- 税区分の詳細画面で、 [税率]タブの [税率のタイプ] (SQL名: TaxType) リンクを使う。

🌽 注意:

税率のタイプの [変数名] (SQL名:SQLName)は税金の計算式に表示できます。 変数名には英数字だけを使い、スペースは入れないようにします。先頭の文字は 英字でなければなりません。

税率

任意の税区分に適用可能な「税率のタイプ」ごとに、任意の日付から適用可能な「税率」のリストを定義します。

任意の場所の税率のタイプに使用される税率リストを表示するには、次の手順に 従います。

- 1 場所を表示します (ナビゲーションバーの [組織/場所]リンク)。
- 2 場所の税区分の詳細画面を表示します([全般]タブの[税区分](SQL名: TaxJuris)タブ)。
- 3 [プレビュー]タブを選択します。
- 4 任意の日付で税区分の税率のタイプに適用可能なすべての税率のリストが表示されます。

税金の計算式

税金の計算式のテーブルにアクセスするには、ナビゲーションバーの[ファイナンス/税金/税金の計算式]リンクを選択します。

税金の計算式では、以下のようなBASIC計算式を使って税額を計算します。

RetVal = <税率> * <課税される経費>

税率は、固定値またはAmTaxRate()関数で計算された値です。この関数は、税率 のタイプ、税区分、または日付に応じて税率を返します。

AmTaxRate()関数のシンタックスについては、マニュアル『プログラマーズリファ レンス』を参照してください。

簡単な計算式の例

RetVal = 21.6 * [mPrice]

実用例



● 警告:

この実用例は、Windowsクライアントの使用時のみ実行できます。

ここでは依頼明細の税を計算します。依頼明細は、税区分と税金の計算式に関連 付けられます。税金の計算式はAmTaxRate()関数を使用します。

- 1 税区分を作成します。
 - a 税区分のテーブルを表示します (ナビゲーションバーの 「ファイナンス / 税金/税区分1リンク)。
 - b 新規の税区分を作成します([新規作成]ボタン)。
 - c [名前]フィールド(SQL名: Name)に値を入力します: 実用例 税区分
 - d レコードを作成します(「作成]ボタン)。
 - e 「税率 1 タブを選択します。
 - f 税率を追加します(**■**ボタン)。
 - g 以下のフィールドに値を入力します。
 - 【税率のタイプ](SQL名: TaxType): 実用例 タイプ



🌽 注意:

'XXX'(テーブル'YYY')を作成しますか?というメッセージが表示された ら、[仮作成]をクリックします。

- 「課税日] (SQL名:dApplication):2006年1月1日
- 「税率] (SQL名: pRateVal): 10%
- h 連続追加用のボタンをクリックします。
- i 以下のフィールドに値を入力します。
 - 「税率のタイプ] (SQL名: TaxType): 実用例 タイプ
 - 「課税日」(SQL名:dApplication):2006年7月1日

- [税率](SQL名:pRateVal):20%
- j [追加]をクリックします。
- k 「変更] をクリックします。
- Ⅰ 「閉じる]をクリックします。
- 2 税金の計算式を作成します。
 - a 税金の計算式を表示します([ファイナンス/税金/税金の計算式]リンク)。
 - b 新規の税金の計算式を作成します([新規作成]ボタン)。
 - c 以下のフィールドに値を入力します。
 - [名前](SQL名:pRateVal):実用例-計算式
 - [テーブル] (SQL名: TableName): 依頼明細 (amReqLine)

🌽 注意:

次のフィールドを入力する前にこのフィールドを入力する必要があり ます。

■ [スクリプト]フレーム(このフレームには名前のない[計算式](SQL名: memFormula)フィールドが表示されます)。

RetVal = amTaxRate("実用例 - タイプ" , [lTaxJurisId], [dtService], [mUnitCost]) * [mUnitCost]

- d 「作成]をクリックします。
- e 「閉じる]をクリックします。
- 3 依頼明細を作成します。
 - a 依頼を表示します(ナビゲーションバーの「調達/依頼]リンク)。
 - b 新規の依頼を作成します([新規作成]ボタン)。
 - c [目的]フィールド(SQL名: ReqPurpose)に値を入力します:実用例-依頼
 - d 「作成] をクリックします。
 - e 「明細] タブを選択します。
 - f **●**をクリックします。
 - g [購入]タブを選択します。
 - h 以下のフィールドに値を入力します。
 - 「日付] (SQL名: dtService): 2006年7月15日
 - [単価] (SQL名: mUnitCost):100
 - 「税金の計算] (SQL名: bUsesTaxForm):オプションを選択します。
 - 税金:PC-計算式
 - 「税区分] (SQL名: TaxJuris): 実用例 税区分

i [税率](SQL名:pTaxRate)と[税額](SQL名:mTaxValue)フィールドを確認します。これらのフィールドは、上記で作成/記入したフィールド、リンクとレコードに応じて自動的に計算されます。

税金の計算式を適用する

- 税金の計算式が場所、つまり税区分によって変わる場合は、次の作業を行い ます。
 - 1 Windowsクライアントのみ: [管理/画面一覧]メニューまたは税区分の テーブルから[税率のタイプ]画面を表示して、税率のタイプを作成しま す。
 - 2 場所ごとに税区分を指定します。
 - 3 各税区分の詳細画面の[税率]タブで、各税区分のレベルで税率のタイプに適切な税率を定義します。
- 税金の計算方法を入力します。
 - 資産ごとまたは契約全体の賃貸料にかかる税金を支払う場合は、契約の詳細画面の[賃貸料]タブ、または資産の詳細画面の[支払]タブページで税金の計算方法を入力します。
 - 税金が依頼明細または発注明細に関連する場合は、その明細の詳細画面の 「購入] タブページで税金の計算方法を入力します。



依頼と発注の明細は、依頼と発注の詳細にある [明細] タブにリストされます。

税金が請求明細に関連する場合は、請求明細の詳細画面の[価格]タブページで税金の計算方法を入力します。



請求明細は、請求詳細の[明細]タブにあります。

税金の計算方法は次のいずれかです。

- 固定(値を直接入力する)
- 計算式(計算式を使うことを指定する)

₩ 重要項目:

資産または契約の定期的な賃貸料の支払にかかる税金は、AssetCenter Serverに よって自動的に計算されます。この種の税金は、賃貸料の支払の経費明細に表示 されます。賃貸料の支払の経費明細は、契約全体(資産に配賦も分割もされない 賃貸料の支払)または契約上の資産単位(資産に比例配分される賃貸料の支払) で作成されます。

≠ 注意:

税金の自動計算は、リース契約の一時金には適用されません。

場所に応じて税金を指定する

本節では、場所に関連する税金を指定する方法について説明します

概要

場所によって支払う税金が変わる場合は、まず次の作業が必要です。

- 1 各場所に対応する税区分を定義する。
- 2 税区分ごとに税率のタイプと課税日現在の税率を定義する。

税区分のテーブルは階層構造になっており、指定した税区分について定義した税 率のタイプと税率が下位の税区分のすべてに適用されるため、手動でコピーする 必要はありません。

場所の詳細画面の「全般] タブページで、「税区分] (SQL名: TaxJuris) フィー ルドを使って場所に税区分(税率)を関連付けることができます。

税区分の税率のタイプを管理する

税区分に当てはまる税率を指定する

- 1 次のいずれかの方法で、税区分を表示します。
 - 場所の詳細画面を表示して、[税区分]フィールドの右側にある選択ボタ ンをクリックします。
 - ナビゲーションバーの「ファイナンス / 税金 / 税区分 1 リンクをクリック します。
- 2 「税率] タブを選択します。
- 3 税率を追加します(Windowsクライアントの■ボタンまたはWebクライアント の [追加])。

- 4 次のいずれかの方法で、「税率のタイプ] (SQL名: TaxType) フィールドに 入力します。
 - WindowsクライアントおよびWebクライアント: 税率のタイプのテーブル で「税率のタイプ」を選択します。
 - Windowsクライアントのみ:「税率のタイプ」を作成します(「仮作成」 または「詳細設定」)。
- 5 「課税日] (SQL名: dApplication) フィールドと「税率] (SQL名: pRateVal) フィールドに入力します。各フィールドには、税率の値とその税率の適用開 始日を指定します。
- 6 税率を追加します(Windowsクライアントの「追加] ボタンまたはWebクラ イアントの[**OK**])。

税区分から税率を削除する

- 1 変更する税区分を表示します(ナビゲーションバーの「ファイナンス/税金 /税区分]リンク)。
- 2 「税率] タブを選択します。
- 3 削除する税率を選択します。
- 4 税率を削除します(Windowsクライアントの■ボタンまたはWebクライアント の[削除])。

税区分の税金を表示する



፟ 警告:

この機能はWindowsクライアントのみで使用できます。

税率のタイプと税金の値を定義すると、その税区分で適用可能な税金を日付を指 定して表示することができます。表示するには、次の手順に従います。

- 1 税区分を表示します(ナビゲーションバーの「ファイナンス/税金/税区分1 リンク)。
- 2 税金を表示する税区分を選択します。
- 3 「プレビュー]タブを選択します。
- 4 [課税日]フィールドに、場所に当てはまる税金を調べる日付を入力します。
- 5 指定した日付現在で有効な税金が表示されます。これらは税区分固有の税金 であり、親場所から継承された税金です。

賃貸料の税金の計算方法を指定する

本節では、賃貸料の支払にかかる税金の計算方法を指定する方法について説明します。

税金の計算方法は、 [税金] (SQL名: TaxFormula) 、 [税区分] (SQL名: TaxJuris) 、 [税額] (SQL名: mTaxValue) 、 [税率] (SQL名: pTaxRate) の各フィールドで定義します。これらのフィールドは、次のタブページで表示されます。

- 契約全体の賃貸料(「賃貸料]タブページ/「賃貸料]サブタブページ)
- 資産単位の賃貸料(「取得]タブページ/「賃貸料]サブタブページ)

[税金の計算] (SQL名: bUsesTaxForm) オプションに応じて、次のように税金の計算方法を指定できます。

- このオプションのチェックボックスをオフにすると、税金は固定されます。
- このオプションのチェックボックスをオンにすると、税金は計算式を使って 計算されます。

固定税金

資産単位または契約全体の賃貸料にかかる税金を固定するには、次の手順に従います。

- 1 [税金の計算] (SQL名: bUsesTaxForm) チェックボックスをオフにし、税金を固定することを指定します。
- 2 [税額] (SQL名: mTaxValue) フィールドに税額を、または [税率] (SQL名: pTaxRate) フィールドに税率を入力します。

[賃貸料]サブタブページで税金を固定すると、毎回支払う賃貸料にかかる税金がすべて固定されます。

後で賃貸料が資産に配賦された場合は、資産単位の賃貸料にも同じ税金規則が適用されます。

税金の計算式

AssetCenterでは、計算式を使って税金を計算できます。

税金の計算式の詳細画面にアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 [税金の計算] (SQL名: bUsesTaxForm) チェックボックスをオンにし、計算式を使って税金を計算することを指定します。
- 2 税金の計算式が既に存在する場合:
 - Windowsクライアントでは、『アイコンを使用して選択します。
 - Webクライアントでは、
 □アイコンをクリックします。

3 税金の計算式がまだ存在しない場合:Windowsクライアントを使用し、[税金]フィールドの右側にある©アイコンをクリックして、[新規作成]をクリックします。

税金の計算式には、次の情報が含まれています。

- [名前](SQL名: Name)。税金の計算式のテーブル内で使われる固有の名前です。
- [カテゴリ] (SQL名: Category)。不特定のリストデータから選択します。カテゴリは計算式の内容の説明です。このフィールドは、情報の参照用で、データの自動処理に使われることはありません。リストデータが「オープン」で、ユーザが適切な権限を持っている場合は、このフィールドに新しい値を入力できます。
- 「テーブル] (SQL名: TableName)。リンクするテーブルです。
- [計算式] (SQL名: memFormula) フィールドで指定するシンタックスです。 Windowsクライアント: 図をクリックすると、Basic計算式スクリプトを簡単に 入力できるスクリプトビルダが表示されます。

税金の計算式にリンクしているテーブルのフィールドを、計算式に組み込むことができます。

[賃貸料]サブタブページのテーブルにリンクされている税金の計算式を選択できるかどうかは、次のように、賃貸料が資産単位で分割されているかどうか、さらにその分割の方法によって決まります。

- 次の計算式は、資産の賃貸料のテーブルにリンクできます。
 - 契約に関連しない資産の賃貸料にかかる税金の計算式
 - 契約上の資産のすべてまたは一部に比例配分され、分割または配賦された 契約賃貸料にかかる税金の計算式
- 次の計算式は、契約の賃貸料のテーブルにリンクできます。
 - 資産に配賦されていない契約の賃貸料にかかる税金の計算式

税金の分割方法

- 税金の計算式に資産の賃貸料のテーブルの変数を使う場合は、税金は賃貸料の経費明細が作成されるときに資産ごとに直接計算されます。
- 税金の計算式に資産の賃貸料のテーブルの変数を使わない場合は、税金は契 約単位で計算されます。
 - 賃貸料が資産に配賦されていない場合は、税金は契約の経費明細に統合されます
 - 賃貸料が資産に配賦されている場合は、税金は賃貸料の計算と同じ規則に 従って各資産の経費明細に分割されます。

税金の計算式のシンタックス

税金の計算式には複雑なシンタックスを指定でき、次の情報を組み込むことができます。

計算式がリンクするテーブルのフィールド

■ 課税対象となる賃貸料の支払の税区分に適用可能な税率のタイプ。これらは 変数名で指定します。

🌽 注意:

AssetCenterのスクリプトビルダは、ユーザが税金の計算式を記述する場合に役立ちます。スクリプトビルダを表示するには、計算式の入力フィールドの右側にある図をクリックします。

計算式を使って計算した税金を賃貸料に関連付ける

次に、計算式を使って計算した税金を賃貸料に関連付ける手順を示します。

手順1:場所のテーブルで指定

契約上の資産のすべて(または一部)に分割された資産賃貸料または契約全体の 賃貸料に対して税金を支払う必要があり、その税金が資産の設置場所によって変 わる場合は、次の手順を実行します。

- 1 場所を表示します(「組織/場所]リンク)。
- 2 資産の設置場所を選択します。
- 3 設置場所の税区分を選択します。
- 4 この税区分に適用可能な税率のタイプ、および対応する税率と課税日を指定します。

手順2:契約賃貸料または資産賃貸料の[計算式](SQL名:TaxFormula)フィールドで指定

- 1 [税金の計算] (SQL名: bUsesTaxForm) チェックボックスをオンにして、賃貸料にかかる税金を計算式で計算することを指定します。
- 2 税金の計算式が既に存在する場合は、[計算式]フィールドの右の□ボタンをクリックして計算式を選択します。
- 3 計算式がない場合は、Windowsクライアントを使用次の手順で[計算式] フィールドから直接作成します。
 - 1 [計算式]フィールドに計算式の名前を入力し、別のフィールドにカーソルを移動します。
 - 2 表示されるダイアログボックスで[詳細設定]を選択すると、税金の計算 式の詳細画面が表示されます。
 - 3 必要に応じて、計算式の[カテゴリ]を入力します。
 - 4 計算式のシンタックスを入力します。
- 4 「変更] をクリックし、変更を確定します。

税区分に無関係な計算式の例

「税率のタイプ」を使わない計算式の例を次に示します。



この例では、税区分に無関係な税金の計算式が[計算式](SQL名: memFormula)フィールドに直接入力されています。この式によると、税金は賃貸料の5%です。

税区分を指定する計算式の例

契約賃貸料をすべての資産に配分した場合に、各賃貸料にかかる税金を税区分を 指定して計算する計算式の例を次に示します。



この例では、税金は契約賃貸料のある一定の割合と同じになります。この割合は、「地方」と「国」税率のタイプの値の合計です。

上の計算式の場合は、指定した期間の契約賃貸料に関連する税金を計算する過程 が含まれています。

- 1 AssetCenter Serverは、税率のタイプ(計算式に組み込まれる変数)が税区分に適用可能かどうかを調べます。
- 2 計算式に使用されている税率のタイプが既存の税区分にない場合は、対応する税率を0として計算します。
- 3 税率のタイプが既存の税区分にある場合は、AssetCenter Serverは賃貸料の適用日現在の税率を調べ、これを計算式に使います。適用日現在の税率が定義されていない場合は、0とします。
- 4 最後に、AssetCenter Serverは税金の総額を計算し、賃貸料の経費明細に統合します。

賃貸期間中の税率の変化を管理する

税金の計算に使う税率のタイプの税率は、賃貸期間中(各計算期間内)に変わる可能性があります。

AssetCenter Serverは、賃貸料の支払日に有効な税率を適用します。多くの場合はこれで十分です。

税率の変化を計算に反映させたい場合は、次のように複数の連続的な賃貸料を定義することをお奨めします。

- 1 [賃貸料]サブタブページを表示します(契約の詳細画面の[賃貸料]タブページまたは資産の詳細画面の[取得]タブページで選択)。
- 2 賃貸料の支払の期限を、賃貸の期間内で税率が変わる直前の日付に変更します。
- 3 [賃貸料]サブタブページを複製し、次の賃貸料を新しく作成します。
 - 1 移行期間の賃貸料。この賃貸料に対しては、税金の計算式を使わずに直接値を入力して税金を固定します。
 - 2 税率変更後の期間の賃貸料。

調達サイクルで税金を使う

本節では、資産の調達サイクルで税金を使う方法について説明します。

はじめに

資産の調達に関連する税額は、調達の各過程(購入依頼、見積、発注、請求書) で、依頼、見積、発注、または請求書の詳細画面にある[明細]タブページの下 側に表示されます。



[明細]タブページに表示される総額は、情報の提供のみを目的としており、 ユーザが直接編集することはできません。ただし、依頼、発注、請求書のいずれ かの明細の詳細画面でその明細に対応する税金を定義できます。

自動処理

AssetCenterでは、調達サイクルの各過程に税額が継承されます。例えば、購入依頼で税金を定義すれば、発注と請求書を作成するときに、自動的に同じ金額が入力されます。

調達サイクルで指定した税金を、前の過程に反映させることはできません。例え ば、発注を作成するときに税金を定義しても、元の購入依頼の税金は変更されま せん。



調達サイクルの自動処理で各過程の値が食い違うことがないようにするために も、税金は調達サイクルのできるだけ早い過程(購入依頼)で規則的に定義する ことをお奨めします。

税金を入力する

税金を入力する

調達サイクルの各過程で税金を入力するには、次のタブページを使います。

- 依頼明細の詳細画面の[購入]タブページ
- 発注明細の詳細画面の「購入] タブページ
- 請求明細の詳細画面の「価格] タブページ

各詳細画面の右下の領域で税金を指定します。税金を固定する場合は、 [税金の計算] (SQL名: bUsesTaxForm) チェックボックスをオフにし、税額または税率を直接入力します。計算式を使って税金を計算する場合は、 [税金の計算] (SQL名: bUsesTaxForm) チェックボックスをオンにして税金の計算式を選択します。

税金の自動処理

依頼、発注、請求のいずれかの明細の詳細画面の [購入] タブページでは、次のフィールドが互いにリンクしており、指定した値に応じてデータが自動的に処理されます。

表 4.1. 税金の自動処理

変更するフィールド	自動的に変更されるフィールド	自動処理に使われるフィールド
[単価] (SQL 名:	[税額] (SQL 名:	[税金](SQL名:
mUnitCost)	mTaxValue)	TaxFormula)
[税金] (SQL 名:	[税額](SQL 名:	[単価](SQL名:
TaxFormula)	mTaxValue)	mUnitCost)
[税率] (SQL名:pTaxRate)	[税額] (SQL 名:	[単価] (SQL 名 :
	mTaxValue)	mUnitCost)

[総額] (SQL名: mCost) フィールドの値は、次の計算式によって計算されます。

合計=(単価 + 税額)*(1-割引率)

5 TCO(総所有コスト)

概要

所有資産の総所有コスト(Total Cost of Ownership=TCO)は、所有するハードウェアおよびソフトウェア資産から発生する直接および間接的なすべての経費を特定するときに必要になります。

これらの費用には、取得、研修、テクニカルサポート、およびアップグレードにかかった経費も含まれます。

TCOの計算は、異常に高い経費や過剰な経費を識別する理想的な手段です。

所有資産の総所有コストの管理は、企業の利損益に大きな影響を与えます。専門家の分析結果では、所有資産の総所有コストを徹底的に管理することで、2年間で30~40%の減額が可能なこと、また逆にこの戦略を誤ると50%増額する危険性もあることが報告されています。

所有資産の総所有コストには、以下の項目が含まれます。

- ハードウェアおよびソフトウェアの取得原価
- 管理費(外部費用および内部費用)
- エンドユーザ原価

ハードウェアおよびソフトウェアの取得原価

これらは、デスクトップおよびラップトップコンピュータ、サーバ、周辺機器、およびネットワークシステムなどに関する経費です。

また、ハードウェアおよびソフトウェアの取得およびリースの原価も含まれま す、

一般的に、取得原価は、資産、リース契約、および購入記録などの財務情報に よって計算されます。残存価額もその中に含まれます。

このコストカテゴリは、さらに次の従属カテゴリに分類されます。

- 取得原価:ハードウェアの購入またはアップグレードにかかった年間経費。 取得原価は、ある特定の期間で減価償却されます。これは資産のカテゴリに よっても異なりますが、デスクトップコンピュータの場合は一般的に定額法 により4年間で減価償却されます。
- ソフトウェアの原価:ソフトウェアの購入またはアップグレードにかかった 年間経費。一般的にこの原価は減価償却されません。スイートパッケージま たは統合パッケージの一部のソフトウェアを使用する「Select」タイプの使用 許諾契約の場合は、契約期間で減価償却します。例えば、3年間で\$30,000の 「Select」タイプ契約のソフトウェアの場合は、年間\$10,000減価償却されるこ とになります。
- 賃貸費:このカテゴリにはハードウェアおよびソフトウェアの年間リース料 金が含まれます。

管理費

管理費には、ハードウェアおよびソフトウェアのインストール、管理、サポー ト、および保守にかかる経費が含まれます。この経費には、外部の業者に支払っ た修理費などの外部費用、および社内の技術者がコンピュータをインストールし たときにかかる内部費用の2種類あります。外部費用には必ず支払先からの請求 書が伴うため、簡単に評価できます。内部費用の場合は、各従業員のカテゴリに 応じた時給で見積ることができます。例えば、1人のエンジニアに対し、内部費 用として時給2000円が支払われると見なすことができます。このカテゴリの原価 には、社外および社内のすべての管理費が含まれます。

エンドユーザ原価

この原価は、資産の使用に関連する間接的な費用です。このカテゴリは、次のよ うに大別されます。

- 通常のテクニカルサポート担当者を使わずに、エンドユーザ自身またはその 他のユーザがサポート業務を実行した場合に発生する経費。
- 自主トレーニング費:マニュアルを読んだり、ハードウェアやソフトウェア をテストするなど、エンドユーザが自分で学習した時間にかかる経費。



慣習的に、これらの経費には書類が伴わないため、調査が必要です。例えば、これらの経費を、書類の伴う経費(取得、リース、またはメンテナンス費など)の一部として計上することは難しいことです。ハードウェア、ソフトウェア、および管理費の約27%をユーザ原価として計上する例もあります。

TCO計算の実装

TCOの自動計算を行えるようにするには、ここで説明されているタスクを完了する必要があります。

必要モジュールを起動する

以下のモジュールが満たす必要がある条件を列記します。

- データベースに挿入されているライセンスに含まれている。
- Windowsクライアントで起動している(「ファイル/モジュールの起動1)。

表 5.1. TCO - 必要モジュール

必要な機能	必要なモジュール
コスト管理	ファイナンス
資産管理	ポートフォリオ
作業指示管理	ポートフォリオ
契約	契約
調達	調達

専門分野データを既存データベースにインポートする

ここでインポート可能なシステムデータを使用して、作業指示の経費明細生成の 自動化を行います。

ヘルプデスクチケットアクティビティに関する経費明細の生成の自動化にも使用 されます。

データベース作成時

データベース作成時にTCO専門分野データを挿入するには、『管理』ガイドの「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除/AssetCenter Database Administratorを使ってデータベース構造を作成する」の章にある指示に従ってください。

[インポートするデータ]ページで、[ファイナンス-専門分野データ(TCO)]を選択します。

データベース作成後

専門分野データからデータを既存データベースにインポートする

データベース作成時にTCO専門分野データを挿入しなかった場合、以下の手順を 実行してください。

- 1 AssetCenter Database Administratorを起動します
- 2 「ファイル/開く1メニューアイテムを選択します。
- 3 [データベース記述ファイルを開く(新規データベースの作成)]オプションを 選択します。
- 4 AssetCenterインストールフォルダのconfigサブフォルダにある、gbbase.xmlファイルを選択します。
- 5 データベースの作成ウィザードを開始します([アクション/データベースの作成]メニュー)。
- 6 ウィザードのページに次のように入力します(ウィザードページ間の移動には、[次へ]と[前へ]の各ボタンを使用します)。

「**SQL**スクリプトの生成/データベースの作成 1 ページ:

フィールド	値
データベース	レポートのインポート先とするデータベースへの
	接続を選択します。
作成	専門分野データをインポート
高度な作成オプションを使用	このオプションは使用しません

「作成パラメータ] ページ:

フィールド	值
パスワード	管理者のパスワードを入力します。
	注意:
	AssetCenterデータベース管理者は、[部署と従業員](SQL名:amEmplDept)テーブル内の[名前](SQL名:Name)フィールドがAdminに設定されているレコードです。データベース接続ログインの格納先は[ユーザ名](SQL名:UserLogin)フィールドです。管理名はAdminです。パスワードの格納先は[パスワード]フィールド(SQL名:LoginPassword)です。

[インポートするデータ]ページ:

フィールド	値
使用可能データ	オプション [ファイナンス-専門分野データ(TCO)]
	を選択します。
エラー発生時にインポートを中止	問題発生時にインポートを中止する場合、このオ
	プションを選択します。
ログファイル	エラーと警告を含むすべてのインポート操作をロ
	グするファイルの完全名です。

7 ウィザードを使用して定義したオプションを実行します([完了]ボタン)。

AssetCenterユーザに適切なアクセス権限を割り当てる

作業指示から経費明細が自動的に作成されるようにするには、作業指示を用意するユーザが [経費明細] (SQL名: amExpenseLine) テーブルに対し、以下のアクセス権限を持つようにしてください。

- テーブル:
 - 作成
 - 削除

内部技術者の時間コストを定義する

内部メンテナンス作業指示が自動的に経費明細の作成をトリガするようにする場合、以下の準備を行う必要があります。

- 1 [コード] (SQL名: Code) フィールドがTCO_WORK_UNITに等しい属性が存在することを確認します
- 2 以下のフィールドとリンクを入力して、少なくとも1つのモデルを作成します

フィールドラベル	フィールドのSQL名	值
名前	名前	選択する値
[全般] タブ		
属性	属性	[コード](SQL名:Code)フィールドが
		TCO_WORK_UNITに等しい属性を選択します

3 以下のフィールドとリンクを入力して、各作業指示コストの積を作成します

フィールドラベル	フィールドのSQL名	值
説明	説明	選択する値 (例:モデルの名前)
[全般] タブ		
モデル	モデル	[コード] (SQL名 : Code) フィールドが TCO_WORK_UNITに等しい属性にリンクされたモデ ルを選択します
[従業員]タブ		
作業単位	tsUnitDuration	内部作業指示を請求する際に使用する作業単位
乗数	fOverheadFactor	このフィールドを使用して[表記価格](SQL名: mPrice)から内部経費付替えを作成し、適用可能な内部経費付け替えマージンの明細を明確にします。 [表記価格](SQL名: mPrice)フィールドがすでに内部経費付替えに対応している場合、値1を[乗
		数]フィールドに割り当てます。
[取得] タブ		
表記価格	mPrice	技術者の作業単位あたりの内部コスト
		手動でも内部経費付替え金額をこのフィールドに 入力できます。
		この場合、値1を[乗数]フィールドに割り当てて ください。 (fOverheadFactor).

4 以下のフィールドを入力して、各技術者とその内部経費付替えコストを定義 する製品とを関連付けます。

フィールドラベル	フィールドのSQL名	值
[コスト]タブ		
サービスの費用	WorkUnit	作業単位当たりの技術者の料金を与える製品を選択します

以前の経費明細をTCO計算の考慮に入れる

TCO計算を設定したら、すべての既存の経費明細を更新することで、定義した標 準に準拠する値が[経済的償却期間](SQL名:tsAccrualPeriod)フィールドに入 るようにします。

これには、TcoLibスクリプトライブラリにあるIAccrualPeriod関数を使用できます。

同じ関数を使用して、[経済的償却期間] (SQL名:tsAccrualPeriod)フィールドのデフォルト値を入力します。

AssetCenterでTCOを表示する

資産のTCO

資産のTCOを表示する

資産の従属資産によるTCOを含めた、資産のTCOを表示するには、以下の手順を 実行します。

- 1 資産のリストを表示します (ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理/資産]リンク)。
- 2 資産の詳細を表示します。
- 3 「コスト]タブを選択します。
- 4 [年間**TCO**] 特殊フィールド(SQL名: sysCoreCurAvgYearlyTcoTotal) を調べます。

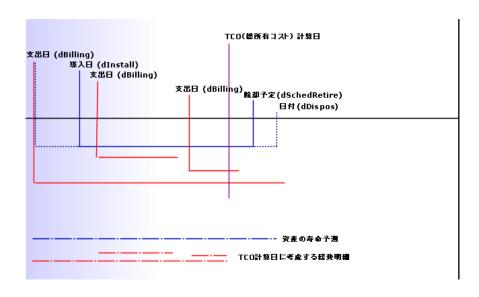
資産の従属資産のTCOを除いた、資産のTCOを表示するには、以下の手順を実行します。

- 1 資産のリストを表示します(ナビゲーションバーにある[ポートフォリオ管理/資産]リンク)。
- 2 ショートカットメニューの [ユーティリティ / リストの設定] コマンドを使用して、リストを設定します。
- 3 [年間**TCO**] (SQL名: sysCoreAvgYearlyTco) 特殊フィールドを追加します。



AssetCenter Database Administratorを使用しても、この特殊フィールドを資産のテーブルの詳細画面に追加できます。

図 5.1. TCO計算 - 日付含む



資産のTCOは、次のように計算されます。

- TCOは、基本通貨1で与えられます。
- [支出日](SQL名:dBilling)フィールドの値が現在日よりも前の経費明細が 含められます。
- 含まれる各経費明細について、TCO計算日での償却経費のパーセントの計算に 以下の公式が使用されます。

(DHT + CHT) * (D1とD2の間の期間) / DA

ここで、

- DHT = 経費明細の詳細、[借方(通貨Aの換算額)] (SQL名: mDebitRef1)
- CHT = 経費明細の詳細、[貸方(通貨Aの換算額)] (SQL名: mCreditRef1)
- D1 = 経費明細の詳細、「支出日] (SQL名: dBilling)
- D2 = 次の2つの日付のうちの古い日付:
 - 現在日
 - 経費明細の詳細、[支出日] (SQL名:dBilling)フィールド+[経済的償却期間](SQL名:tsAccrualPeriod)
- DA = 経費明細の詳細、 [経済的償却期間]フィールド (SQL名: tsAccrualPeriod)
- 両経費明細の結果金額が足し合わされます。

■ 1年の合計は、以下の公式を使用して計算します。

TCO = S / (D1とD2の間の期間)

ここで、

- S = 各経費明細の差し引かれた金額
- D1 = 以下に挙げた日のうち、一番古い日付です。
 - 資産の詳細、「導入日」(SQL名:dinstall)フィールド
 - 経費明細の「支出日」(SQL名:dBilling)フィールド
- D2 = 以下に挙げた日のうち、一番新しい日付です。
 - 資産の詳細、[除却予定](SQL名:dSchedRetire)フィールド
 - 資産の詳細、[除却日](SQL名:dDispos)フィールド
 - これらのフィールドが入力されていない場合:資産の詳細、[導入日] (SQL名:dlnstall)フィールド+モデルの詳細、[経済的償却期間] (SQL名:tsLifeExpectancy)フィールド
 - 上記フィールドがどれも入力されていない場合:資産の詳細、[導入日](SQL名:dinstall)フィールド+3年

資産のTCOの評価に使用される特殊フィールド

資産の従属資産を含めた資産のTCOは、以下の特殊フィールドを使用して計算されます。

- [年間**TCO**] (SQL名: sysCoreCurAvgYearlyTcoTotal):このフィールドは[従属資産を含む年間**TCO**] 特殊フィールドと、基本通貨1の記号とをつなげます。
- [従属資産を含む年間**TCO**] (SQL名: sysCoreAvgYearlyTcoTotal):このフィールドは資産とその従属資産のTCOを、資産に関連付けられた経費明細から計算します。

資産の従属資産を除いた資産のTCOは、以下の特殊フィールドを使用して計算します。

■ [年間**TCO**] (SQL名:sysCoreAvgYearlyTco):このフィールドは資産のTCO を、資産に関連付けられた経費明細から計算します。

資産のTCO計算方法を変更するには、これらの特殊フィールドを複製して名前を変更して、AssetCenterの今後の更新で上書きされないようにする必要があります。

これには高度な専門技術が必要です。

業務サービスのTCO

業務サービスのTCOを表示する

業務サービスのTCOを表示するには、以下の手順を実行します。

- 1 業務サービスのリストを表示します(ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/業務サービス/業務サービス]リンク)。
- 2 業務サービスのクライアント-リソース関係の1つの詳細を表示します。
- 3 「クライアント-リソースの関係] タブを選択します。
- 4 [業務サービスの年間**TCO**] (SQL名:sysCoreCurAvgYearlyTcoSystem)特殊フィールドを調べます。

業務サービスのTCOの計算方法

業務サービスのTCOは、次のようにして計算されます。

- これには、業務サービス自体のTCOと、業務サービスのリソースのTCOが含まれます。
 - 業務サービスとリソースのTCOの計算方法は、資産のTCO[献63]に説明があります。
- 業務サービスのリソースのTCOは、財務のインパクト (クライアント-リソース関係の [財務のインパクト] (SQL名:pFinImpact)フィールド)によって重み付けされます。

これは、リソースが数度のみ使用されている場合でも各クライアント-リソースに対して行われます。

リソースのTCOは、業務サービスのコンテキスト内でリンクされている全クライアント-リソース関係の[財務のインパクト]フィールドの値をまとめます。

業務サービスのTCOを評価する特殊フィールド

業務サービスのTCOは、以下の特殊フィールドから計算されます。

- [業務サービスの年間TCO] (SQL名: sysCoreCurAvgYearlyTcoSystem):このフィールドは[業務サービスの年間TCO] (SQL名: sysCoreCurAvgYearlyTcoSystem)特殊フィールドと基本通貨1の記号とをつなげます。
- [業務サービスの年間**TCO**] (SQL名: sysCoreAvgYearlyTcoSystem):このフィールドは業務サービスとその従属資産のTCOを、資産に関連付けられた経費明細から計算します。
- 通常、資産のTCOの計算に使用する特殊フィールド。

業務サービスのTCO計算方法を変更するには、これらの特殊フィールドを複製して名前を変更して、AssetCenterの今後の更新で上書きされないようにする必要があります。

これには高度な専門技術が必要です。

モデルのTCO

モデルのTCOを表示する

モデルのTCOを表示するには、以下の手順を実行します。

- 1 モデルのリストを表示します(ナビゲーションバーの[ポートフォリオ管理/モデル])。
- 2 モデルの詳細を表示します。
- 3 「全般 1 タブを選択します。
- 4 [年間**TCO**] 特殊フィールド(SQL名:sysCoreCurAvgYearlyTcoTotalM)を調べます。

モデルのTCOの計算方法

モデルのTCOは、次のようにして計算されます。

- モデルのTCOは、TCO値が非ヌルであるモデルに関連付けられた資産のTCO平均を計算します(従属資産を含む)。
- モデルに関連付けられた資産のTCOの計算方法は、資産のTCO[献63]に説明があります。

モデルのTCOの評価に使用する特殊フィールド

従属資産のTCOを含むモデルのTCOは、以下の特殊フィールドを使用して計算します。

- [従属資産を含む年間**TCO**(通貨)] (SQL名:sysCoreCurAvgYearlyTcoTotalM): このフィールドは[従属資産を含む年間**TCO**] (SQL名: sysCoreAvgYearlyTcoTotalM)特殊フィールドと基本通貨1の記号とをつなげます。
- [従属資産を含む年間**TCO**] (SQL名: sysCoreAvgYearlyTcoTotalM):このフィールドは、モデルに関連付けられた資産に関する、非ヌルのsysCoreAvgYearlyTcoTotal特殊フィールドの平均を計算します。 従属資産のTCOを含みます。
- 通常、資産のTCOの計算に使用する特殊フィールド。

モデルのTCOには、[年間**TCO**]フィールド(SQL名:sysCoreAvgYearlyTcoM)から計算する従属資産のTCOは含まれません。このフィールドは、モデルに関連付けられた資産の、非ヌルのsysCoreAvgYearlyTco特殊フィールドの平均を計算します。

モデルのTCO計算方法を変更するには、これらの特殊フィールドを複製して名前を変更して、AssetCenterの今後の更新で上書きされないようにする必要があります。

これには高度な専門技術が必要です。

TCOに含まれる経費明細の生成

AssetCenterでTCOを表示する[献63]には、資産、業務サービスおよびモデルの各TCOの表示方法、TCO計算の実行方法に関する説明があります。

AssetCenterでTCOを表示する[献63]には、資産にリンクする経費明細の生成方法に関する説明はありません。

これについては、ここで説明します。

経費明細生成の方法

以下の表で、経費明細の生成方法を説明します。

経費タイプ	経費明細の自動作成をトリガするイベ ント	経費明細の [支出日] (SQL名: dBilling)フィールドの入力に考慮さ れる情報
資産の購入	資産の[購入金額](SQL名: mPrice)に値を入力します。	資産の [購入日] (SQL名: dAcquisition) フィールド
	注意:	
	調達モジュールを使用している場合、このフィールドは自動的に入 力されます。	
資産のレンタル	AssetCenter Serverの賃貸料とローンの計算(賃貸料)モジュールにより、賃貸料に対応する経費明細が自動的に生成されます。	賃貸料の詳細から導き出されたローン 支払日
資産のローンの支 払い	計算(賃貸料)モジュールにより、返済に対応する経費明細が自動的に生成されます。	ローン返済日
[契約メンテナンス]と[契約外メンテナンス]タイプの作業指示		作業指示の [作業完了日] (SQL名: dtActualFixed) フィールド
[内部メンテナンス]タイプの作業 指示		作業指示の[作業完了日](SQL名: dtActualFixed)フィールド
	注意:	
	技術者の[サービスの費用](SQL 名:WorkUnit)リンクは入力され ている必要があります。	

経費タイプ	経費明細の自動作成をトリガするイベ ント	経費明細の[支出日](SQL名: dBilling)フィールドの入力に考慮さ れる情報
		11の旧和
さまざまな経費	手動作成	デフォルトでは、明細作成日

[経済的償却期間] (SQL名:tsAccrualPeriod)フィールドの計算方法

ここでは、TcoLibスクリプトライブラリのIAccrualPeriod関数による、[目的] (SQL名: sePurpose)フィールドの値に基づいた[経済的償却期間](SQL名: tsAccrualPeriod)フィールドの値の計算方法について説明します。

sePurposeフィールドの値が購入(資産)、初回金(資産)、ライセンスの追加、または、調 整の場合

償却期間の開始日	資産の詳細、[導入日](SQL名:dInstall) フィールド
償却期間の終了日	以下に挙げた値の最初の入力値です。 ■ 資産の詳細、 [除却日] (SQL名: dDispos) フィールド
	■ 資産の詳細、 [除却予定] (SQL名: dSchedRetire) フィールド
	■ 資産の詳細、[導入日](SQL名:dInstall) フィールド + モデルの詳細、[経済的償却 期間](SQL名:tsLifeExpectancy)フィール ド
	■ それ以外の場合:3年
仮定の期間を手入力できます	資産の寿命

sePurposeフィールドの値がプロジェクトの場合

償却期間の開始日	以下に挙げた日のうち、一番新しい日付です。	
	■ 資産の詳細、[導入日](SQL名:dInstall)	
	フィールド	
	■ 経費明細の詳細、[支出日](SQL名:	
	dBilling) フィールド	
	■ プロジェクトの詳細、 [開始] (SQL名:	
	dStart) フィールド	

以下に挙げた日のうち、一番古い日付です。

- 資産の詳細、[除却日](SQL名:dDispos) フィールド
- 資産の詳細、[除却予定](SQL名: dSchedRetire)フィールド
- プロジェクトの詳細、[終了](SQL名: dEnd)フィールド



日付が見つからない場合、1年の期間が使用されます。

sePurposeフィールドの値がその他の場合



sePurposeフィールドは、ローン支払明細のその他に設定されています。

固定期間:30日

sePurposeフィールドの値が初回金(契約)の場合

償却期間の開始日	以下に挙げた日のうち、一番新しい日付です。 ■ 資産の詳細、[導入日](SQL名:dInstall) フィールド
	■ 経費明細の詳細、[支出日](SQL名: dBilling)フィールド
	■ 契約の詳細、[開始](SQL名:dStart) フィールド
償却期間の終了日	以下に挙げた日のうち、一番古い日付です。
	■ 資産の詳細、[除却日](SQL名:dDispos) フィールド
	■ 資産の詳細、 [除却予定] (SQL名: dSchedRetire) フィールド
	■ 契約の詳細、[終了](SQL名: dEnd) フィールド

🌽 注意:

日付が見つからない場合、1年の期間が使用されます。

sePurposeフィールドの値が支払、または、契約の場合

■ 契約の主要な賃貸料の詳細、[回数](SQL名:sePeriodicity)フィールド

■ [回数] (SQL名: sePeriodicity) フィールドが0(1回): sePurposeフィールドの値が初回金(契約)の場合[献 70]

sePurposeフィールドの値が作業指示、社内(作業指示)、または、社内作業(チケット)の場合

固定期間	■ 作業指示:作業指示モデルの [経済的償却 期間] (SQL名:tsLifeExpectancy) フィール ド
	■ 研修セッション:研修モデルの [経済的償 却期間] (SQL名:tsLifeExpectancy) フィー ルド
	■ それ以外の場合:3ヶ月
仮定の期間を手入力できます	資産や資産モデルの同様の作業指示間の平均時間
sePurposeフィールドの値が消費、または、	購入(消耗品)の場合
固定期間	1年
仮定の期間を手入力できます	消耗品の寿命
sePurposeフィールドの値が研修の場合	
固定期間	■ 研修モデルの [経済的償却機関] (SQL名: tsLifeExpectancy) フィールド
	■ それ以外の場合:1年
仮定の期間を手入力できます	研修セッションが有益となる期間

6 経費付替え

本章では、経費付替え処理とそれを自動化する方法について説明します。また、 実際の機能を確認するための手順を示した実用例も紹介します。これらの実用例 によって、再請求の特徴が明らかになります。

前提

経費付替えを実行するには、AssetCenterユーザライセンスで次のモジュールにアクセスできる必要があります。

- ファイナンス
- 経費付替え

Windowsクライアントの場合、これらのモジュールを起動する必要があります ([ファイル/モジュールの起動]メニュー)。

概要

経費付替えは、配賦元コストセンタによって支払われた経費を、実際の経費発生元である配賦先コストセンタに再配賦するために使用されます。

AssetCenterを使用すると、経費付替え明細の作成を自動化する経費付替え規則を 定義できます。 配賦元コストセンタは経費付替え額が貸方に入り、配賦先コストセンタは同じ額が借方に入ります。貸方の金額と、借方の合計額は、互いに釣り合っています。例:情報システム部門によるコンピュータのインストールに対応する経費付替え規則を定義できます。コンピュータがデータベース内に作成されると、AssetCenterによって2つの経費明細が自動的に作成されます。

- 実施されたサービスを計上するために情報システム部コストセンタの貸方に 入れる経費明細
- コンピュータがインストールされた部署のコストセンタの借方に入る経費明 細

♥ ヒント:

任意のイベントに対して、複数の経費付替え規則を作成できます。 それらの規則が互いに整合性を保つようにします(矛盾や重複がないようにしま す)。

経費付替えシステムの作成

任意の経費タイプの経費付替えを自動化するには、次の手順に従います。

- 1 経費付替えシステムを作成します(ナビゲーションバーの[ファイナンス/経費付替え/経費付替えシステム]リンク)。
- 2 経費付替えシステムに規則を追加します([規則]タブ)。 次のフィールドおよびリンクは必ず入力します。

フィールドまたはリンク	值
[全般] タブ	
[イベント] フレーム内のフィールドおよびリン	規則を適用するトリガとなるイベントを定義しま
<u> </u>	す。
[金額の計算] フレーム内のフィールドおよびリ	経費明細の貸方および借方を計算する方法を定義
ンク	します。
[コストカテゴリ] フレーム内のフィールドおよ	貸方と借方の経費明細を配賦するコストカテゴリ
びリンク	を選択する方法を定義します。
[配賦先コストセンタ]フレーム内のフィールド	借方の経費明細を配賦するコストセンタを選択す
およびリンク	る方法を定義します。

[配賦元コストセンタ]フレーム内のフィールド 貸方の経費明細を配賦するコストセンタを選択すおよびリンク る方法を定義します。

参照コストセンタとコストカテゴリを必須フィールドにする

経費付替え規則を作成する場合(▶経費付替えシステムの作成[献 74])、配賦先コストセンタ、配賦元コストセンタ、コストカテゴリを定義します。

経費付替え規則を正常に実行するためには、規則によって参照されるコストセンタとコストカテゴリを入力する必要があります。

例:情報システム部門がコンピュータインストールを再請求し、再請求額をユーザ部門のコストセンタに請求します。そのため、部門のコストセンタを事前に入力する必要があります。

最も確実な方法は、経費付替え規則によって参照されるコストセンタとコストカ テゴリを必須にすることです。

未解決の経費付替えイベントの処理

- 1 経費付替えシステムを表示します(ナビゲーションバーの [ファイナンス / 経費付替え / 経費付替えシステム] リンク)。
- 2 検証するシステムの詳細を表示します。
- 3 「イベント 1 タブを選択します。
- 4 リストにイベントがあるか確認します。

ある場合は、システム内の規則がトリガイベントを検出したものの、該当の 経費明細を生成できなかったということです。

リスト内の各イベントに対して、次の手順を実行します。

- a イベントの詳細を表示します。
- b イベントの詳細を調べて、経費明細を作成できなかった理由を特定します。

イベントを生成した作成、変更、または削除が行われたレコードの詳細を 調べるには、以下を実行します。

- Windowsクライアント:「ソース」ボタンをクリックします。
- Webクライアント: [状況依存アクション]ドロップダウンリストから「ソース]を選択します。
- c 問題が解決したら、以下を実行します。
 - Windowsクライアント: 「再適用] をクリックします。

■ Webクライアント: [状況依存アクション]ドロップダウンリストから[再適用]を選択します。

経費付替え規則のトリガのスケジューリング

経費付替え規則のトリガをスケジュールすることができます。

スケジューラは、経費付替え規則の詳細で定義されます。

スケジューラの実行は、AssetCenter Serverによって制御されます。

その結果、AssetCenter Serverをサーバ上にインストール、設定、および起動する必要があります。

AssetCenter Serverの設定

- 1 AssetCenter Serverを起動します。
- 2 データベースに接続します([ファイル/データベースに接続]メニュー)。
- 3 「ツール/モジュールの設定] メニューを選択します。
- 4 「定期的経費付替え規則をトリガ] (CbkTimer)モジュールを選択します。
- 5 マニュアル『管理』の「AssetCenter Server」の章、「AssetCenter Serverでモニタするモジュールを設定する/[定期的経費付替え規則をトリガ]モジュール (CbkTimer)」の指示に従って、[定期的経費付替え規則をトリガ]モジュールのオプションを入力します。
- 6 「有効」ボックスをオンにします。
- 7 AssetCenter Serverによって、経費明細に経費付替え処理が自動的に行われます。

AssetCenter Serverのバックグラウンドタスクとしての実行

- 1 AssetCenter Serverを起動します。
- 2 データベースに接続します([ファイル/データベースに接続]メニュー)。

経費付替え明細の生成

データベースに接続されたら、AssetCenter Serverが [定期的経費付替え規則をトリガ] モジュールで定義した一定間隔でスケジューラをチェックする必要があるかどうかを確認します。

これは、[規則の前回の実行](dtLastExec)フィールドの値とスケジューラを実行する頻度を比較することによって判断されます。

経費付替え規則の実行後、AssetCenterServerでは [規則の前回の実行] (dtLastExec) フィールドを使用して実行の日付および時刻が保存されます。

経費付替え規則のスケジューリング

- 1 経費付替えシステムを表示します(ナビゲーションバーの [ファイナンス / 経費付替え / 経費付替えシステム] リンク)。
- 2 経費付替えシステムの詳細を表示します。
- 3 「規則 1 タブを選択します。
- 4 経費付替え規則を追加するか、既存の規則の詳細を表示して、次のフィールドおよびリンクを入力します。

フィールドまたはリンク	値
[全般] タブ	
タイマー(bOnTimer)	はい
[タイマー]タブ	
規則の前回の実行(dtLastExec)	経費付替え規則の作成日付および時刻を残します。
実行日と実行時間	マニュアル『管理』ガイドの「AssetCenter Server 」
	の章、「AssetCenter Serverでモニタするモジュー
	ルを設定する」の節の「検証スケジュール」を参
	照してください。

実用例1 - コンピュータのインストールおよび移設作業の経費付替え

はじめに

この実用例は、経費付替えシステムとその規則を作成する方法とそれらの規則を 適用する方法について理解できるようにするためのものです。

シナリオ

オフィス「PC1 - オフィス1」の「PC1 - Pike」氏のために1台のコンピュータをインストールします。

「PC1 - Pike」氏は部署「PC1 - 管理」に所属し、この部署はコストセンタ「PC1 - 管理」に割り当てられています。

情報システム部は、インストールに対して100を請求し、この金額をユーザの部署のコストセンタとコストカテゴリ「PC1 - ハードウェア移設」に配賦します。 その後、「PC1 - Pike」氏は異動し、コンピュータをオフィス「PC1 - オフィス2」に移設しました。 情報システム部は、移設に対して200を請求し、この金額をユーザの部署のコストセンタとコストカテゴリ「PC1 - ハードウェア移設」に配賦します。

実行する手順

属性の作成

- 1 属性を表示します(ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / 属性] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	值
名前(Name)	PC1 - コンピュータ
[全般] タブ	
作成(seBasis)	ポートフォリオ品目
オーバーフローテーブル(OverflowTbl)	コンピュータ(amComputer)
管理条件(seMgtConstraint)	固有資産タグ

3 Windowsクライアント:すべてのウィンドウを閉じます。

モデルの作成

- 1 モデルを表示します(ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / モデル] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	值
名前(Name)	PC1 - コンピュータ
[全般] タブ	
属性(Nature)	PC1 - コンピュータ

3 Windowsクライアント:すべてのウィンドウを閉じます。

場所の作成

- 1 場所を表示します(ナビゲーションバーの [組織/場所]リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを入力して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	值
名前(Name)	PC1 - オフィス1
フィールドまたはリンク	値
名前(Name)	PC1 - オフィス2

コストセンタの作成

- 1 コストセンタを表示します(ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / コストセンタ] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを入力して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
部署(Title)	PC1 - 情報システム部
フィールドまたはリンク	值
·····································	PC1 - 管理

3 Windowsクライアント:すべてのウィンドウを閉じます。

コストカテゴリの作成

- 1 コストカテゴリを表示します(ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / コストカテゴリ] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	值
名前(Name)	PC1 - ハードウェアの移設

3 Windowsクライアント:すべてのウィンドウを閉じます。

部署の作成

- 1 部署を表示します(ナビゲーションバーの「組織/部署]リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値	
名前(Name)	PC1 - 管理	
[ファイナンス] タブ		

フィールドまたはリンク	値
コストセンタ(CostCenter)	PC1 - 管理

従業員の作成

- 1 従業員を表示します(ナビゲーションバーの[組織/従業員]リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	值
名前(Name)	PC1 - Pike
部署(Parent)	PC1 - 管理

3 Windowsクライアント:すべてのウィンドウを閉じます。

購入済みコンピュータに対するクエリフィルタの作成

- 1 クエリを表示します(ナビゲーションバーの「管理 / クエリーリンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前(Name)	PC1 - 管理部署コンピュータ
テーブル (TableName)	ポートフォリオ品目(amPortfolio)
[クエリ] タブ	
クエリ(memQueryText)	(User.Parent.FullName = '/PC1-管理/') AND
	(Model.Nature.seOverflowTbl = 1)

3 Windowsクライアント:すべてのウィンドウを閉じます。

経費付替えシステムの作成

- 1 経費付替えシステムを表示します(ナビゲーションバーの [ファイナンス / 経費付替え / 経費付替えシステム] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	值
タイトル(Name)	PC1 - コンピュータの移設

- 3 入力を有効にします([作成]ボタン)。
- 4 「規則] タブを選択します。
- 5 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを入力して、規則を追加します。

17 - 11 6 + 15 1T 11 '777	生
フィールドまたはリンク	値
タイトル(Name)	PC1 - コンピュータのインストール
規則適用(bEnabled)	はい
手動承認(bManual)	いいえ
[全般]タブ	(+1 \
挿入(bOnInsert)	はい
コンテキスト(Context)	ポートフォリオ品目(amPortfolio)
フィルタ(Query)	PC1 - 管理部署コンピュータ
基準金額(seAmountRule)	定額
定額(mFixedAmount)	100
[コストカテゴリ]フレーム	
計算規則(seCostCatRule)	リストから選択
名前(コストカテゴリ)(CostCategory)	PC1 - ハードウェアの移設
[配賦先コストセンタ]フレーム	
計算規則(seCostCatRule)	データベースで選択
配賦先コストセンタ(TargetCostCenter)	User.Parent.CostCenter
	注意:
	この値を入力できます。
	AssetCenterにより、入力した文字列に自動的 にピリオドが追加されます。
	他のフィールドやリンクを有効にする前に、 ピリオドを削除する必要があります。
「配賦元コストセンタ]フレーム	
計算規則(seSrcCostCtrRule)	リストから選択
名前(コストセンタ)(SrcCostCenterId)	PC1 - 情報システム部
名前(コストセンタ)(SrcCostCenterId)	PC1 - 情報システム部
	PC1 - 情報システム部
フィールドまたはリンク	値
フィールドまたはリンク 説明(Name)	値 PC1 - 場所の変更
フィールドまたはリンク 説明(Name) 規則適用(bEnabled)	値 PC1 - 場所の変更 はい
フィールドまたはリンク 説明(Name) 規則適用(bEnabled) 手動承認(bManual)	値 PC1 - 場所の変更
フィールドまたはリンク 説明(Name) 規則適用(bEnabled) 手動承認(bManual) [全般]タブ	値 PC1 - 場所の変更 はい いいえ
フィールドまたはリンク 説明(Name) 規則適用(bEnabled) 手動承認(bManual) [全般]タブ 更新(bOnUpdate)	値 PC1 - 場所の変更 はい いいえ
フィールドまたはリンク 説明(Name) 規則適用(bEnabled) 手動承認(bManual) [全般]タブ 更新(bOnUpdate) コンテキスト(Context)	値 PC1 - 場所の変更 はい いいえ はい ポートフォリオ品目(amPortfolio)
フィールドまたはリンク 説明(Name) 規則適用(bEnabled) 手動承認(bManual) [全般]タブ 更新(bOnUpdate) コンテキスト(Context) フィルタ(Query)	値 PC1 - 場所の変更 はい いいえ
フィールドまたはリンク 説明(Name) 規則適用(bEnabled) 手動承認(bManual) [全般]タブ 更新(bOnUpdate) コンテキスト(Context)	値 PC1 - 場所の変更 はい いいえ はい ポートフォリオ品目(amPortfolio)
フィールドまたはリンク 説明(Name) 規則適用(bEnabled) 手動承認(bManual) [全般]タブ 更新(bOnUpdate) コンテキスト(Context) フィルタ(Query)	値 PC1 - 場所の変更 はい いいえ はい ポートフォリオ品目(amPortfolio) PC1 - 管理部署コンピュータ
フィールドまたはリンク 説明(Name) 規則適用(bEnabled) 手動承認(bManual) [全般]タブ 更新(bOnUpdate) コンテキスト(Context) フィルタ(Query)	値 PC1 - 場所の変更 はい いいえ はい ポートフォリオ品目(amPortfolio) PC1 - 管理部署コンピュータ Location
フィールドまたはリンク 説明(Name) 規則適用(bEnabled) 手動承認(bManual) [全般]タブ 更新(bOnUpdate) コンテキスト(Context) フィルタ(Query)	値 PC1 - 場所の変更 はい いいえ はい ポートフォリオ品目(amPortfolio) PC1 - 管理部署コンピュータ Location 注意:
フィールドまたはリンク 説明(Name) 規則適用(bEnabled) 手動承認(bManual) [全般]タブ 更新(bOnUpdate) コンテキスト(Context) フィルタ(Query)	値 PC1 - 場所の変更 はい いいえ はい ポートフォリオ品目(amPortfolio) PC1 - 管理部署コンピュータ Location 注意: この値を入力できます。 AssetCenterにより、入力した文字列に自動的

フィールドまたはリンク	值
定額(mFixedAmount)	200
[コストカテゴリ] フレーム	
計算規則(seCostCatRule)	リストから選択
名前(コストカテゴリ)(CostCategory)	PC1 - ハードウェアの移設
[配賦先コストセンタ] フレーム	
計算規則(seCostCatRule)	データベースで選択
配賦先コストセンタ(TargetCostCenter)	User.Parent.CostCenter
	注意:
	この値を入力できます。
	AssetCenterにより、入力した文字列に自動的 にピリオドが追加されます。
	他のフィールドやリンクを有効にする前に、 ピリオドを削除する必要があります。
[配賦元コストセンタ] フレーム	
計算規則(seSrcCostCtrRule)	リストから選択
名前(コストセンタ)(SrcCostCenterId)	PC1 - 情報システム部

コンピュータの作成

- 1 ポートフォリオ品目を表示します(ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / ポートフォリオ品目] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	值
モデル(Model)	PC1 - コンピュータ
コード(Code)	PC1-001
[全般] タブ	
割当(seAssignment)	使用中
ユーザ(User)	PC1 - Pike
場所(Location)	/PC1 - オフィス1/
[取得] タブ、[価格と条件] サブタブ	
購入価格(mPrice)	2000
[取得] タブ、 [調達] サブタブ	
取得方法(seAcquMethod)	購入
[資産] タブ	
資産タグ(AssetTag)	PC1-001

3 レコードの作成を確定にします(Windowsクライアントの[作成]ボタンまたはWebクライアントの[保存])。

- 4 コストセンタを表示します(ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / コ ストセンタ] リンク)。
- 5 コストセンタ「PC1 管理」の詳細を表示します。
- 6 「経費] タブを選択します。
- 7 経費明細「PC1 コンピュータのインストール: PC1 コンピュータ (PC1-001: PC1-001)」の詳細を確認します。
 - この経費明細は、サービスを受けた部署にインストールのコストを配賦します。
- 8 経費明細の詳細を閉じます。
- 9 コストセンタのリストを表示します。
- 10 コストセンタ「PC1 情報システム部」の詳細を表示します。
- 11 「経費] タブを選択します。
- 12 経費明細「PC1 コンピュータのインストール: PC1 コンピュータ (PC1-001: PC1-001)」の詳細を確認します。
 - この経費明細は、サービスを提供した部署にインストールのコストを払い戻します。
- 13 Windowsクライアント:経費明細の詳細とコストセンタのリストを閉じますが、ポートフォリオ品目の詳細は表示したままにします。

コンピュータの場所の変更

- 1 ポートフォリオ品目「PC1-001」を表示します。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを変更します。

フィールドまたはリンク	値
[全般] タブ	
場所(Location)	/PC1 - オフィス2/-

- 3 レコードの変更を確定にします(Windowsクライアントの [変更]ボタンまたはWebクライアントの [保存])。
- 4 コストセンタを表示します(ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / コストセンタ] リンク)。
- 5 コストセンタ「PC1 管理」の詳細を表示します。
- 6 「経費]タブを選択します。
- 7 経費明細「PC1 場所の変更:PC1 コンピュータ(PC1-001:PC1-001)」の詳細を確認します。
 - この経費明細は、サービスを受けた部署にインストールのコストを配賦します。
- 8 経費明細の詳細を閉じます。
- 9 コストセンタのリストを表示します。

- 10 コストセンタ「PC1 情報システム部」の詳細を表示します。
- 11 「経費]タブを選択します。
- 12 経費明細「PC1 場所の変更:PC1 コンピュータ(PC1-001:PC1-001)」の詳細を 確認します。
 - この経費明細は、サービスを提供した部署に場所変更のコストを払い戻しま す。
- 13 Windowsクライアント:すべてのウィンドウを閉じます。

実用例2 - 経費付替えの分割



● 警告:

この実用例は、Windowsクライアントの使用時のみ実行できます。

はじめに

この実用例は、複数のコストセンタに経費付替えを分割する方法を説明するため のものです。

前提

実用例実用例1 - コンピュータのインストールおよび移設作業の経費付替え[献77] を実行している必要があります。

シナリオ

情報システム部が除却に対して300を請求し、この金額の70%をコストセンタ「PC2 - 在庫」に、30%をコストセンタ「PC2 - 会計」に配賦し、コストカテゴリ「PC1 - ハードウェアの移設」に配賦します。

実行する手順

実行する手順

- 1 コストセンタを表示します(ナビゲーションバーの「ポートフォリオ管理/コ ストセンタ 1 リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを入力して、レコードを作成し ます。

フィールドまたはリンク	值
部署(Title)	PC2 - 在庫
フィールドまたはリンク	值
部署(Title)	PC2 - 会計

分割処理規則の作成

- 1 分割処理規則を表示します([管理/画面一覧/分割処理規則 (amCbkSplitRule)]、[画面セット]列が[完全]に等しい行を選択します)。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	值
タイトル(Name)	PC2 - 除却

- 3 入力を有効にします(「作成]ボタン)。
- 4 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを入力して、明細を追加します ([+])。

フィールドまたはリンク	值
コストセンタ(CostCenter)	PC2 - 在庫
パーセント(pPercentage)	70%
7 , 11 11 + 1 + 1 + 1 > 1 / 2	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

フィールドまたはリンク	值	
コストセンタ(CostCenter)	PC2 - 会計	
パーセント(pPercentage)	30%	

5 Windowsクライアント:すべてのウィンドウを閉じます。

経費付替え規則への規則の追加

- 1 経費付替えシステムを表示します(ナビゲーションバーの [ファイナンス / 経費付替え / 経費付替えシステム] リンク)。
- 2 次のフィールドによって特定される経費付替えシステムの詳細を表示します。

フィールドまたはリンク	值
タイトル(Name)	PC1 - コンピュータの移設

- 3 [規則]タブを選択します。
- 4 次の表に指定されたフィールドおよびリンクを入力して、規則を追加します。

フィールドまたはリンク	值
タイトル(Name)	PC2 - コンピュータの除却
規則適用(bEnabled)	はい
手動承認(bManual)	いいえ
[全般] タブ	
更新(bOnUpdate)	はい
コンテキスト(Context)	資産(amAsset)
フィールド(EvtField)	dDispos
	注意:
	この値を入力できます。
	AssetCenterにより、入力した文字列に自動的 にピリオドが追加されます。
	他のフィールドやリンクを有効にする前に、 ピリオドを削除する必要があります。
基準金額(seAmountRule)	定額
定額(mFixedAmount)	300
[コストカテゴリ] フレーム	
計算規則(seCostCatRule)	リストから選択
名前(コストカテゴリ)(CostCategory)	PC1 - ハードウェアの移設
[配賦先コストセンタ] フレーム	
計算規則(seCostCatRule)	分割処理
分割規則(SplitRule)	PC2 - 除却
[配賦元コストセンタ] フレーム	
計算規則(seSrcCostCtrRule)	リストから選択
名前(コストセンタ)(SrcCostCenterId)	PC1 - 情報システム部

コンピュータの除却

- 1 資産を表示します(ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理 / 資産] リンク)。
- 2 資産「PC1-001」の詳細を表示します。
- 3 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを変更します。

フィールドまたはリンク	值
[資産] タブ	
日付(dDispos)	グラフィックのカレンダを使用して、以下の日付 を選択します。
	2006年9月21日

4 レコードの変更を確定します([変更])。

- 5 [コスト]タブを選択します。
- 6 経費付替え規則「PC2 コンピュータの除却」によって作成された3つの経費 明細(1つの貸方と2つの借方)がリストに表示されます。 これらの経費明細の詳細を確認します。
- 7 Windowsクライアント:すべてのウィンドウを閉じます。

実用例3 - スケジューリングされた経費付替え規則のトリガ実行

はじめに

この実用例は、スケジューラによる経費付替えをトリガ実行する方法を説明する ためのものです。

前提

実用例実用例1 - コンピュータのインストールおよび移設作業の経費付替え[献77] を実行している必要があります。

シナリオ

情報システム部が管理部署コンピュータのサポートに対して購入価格の10%を請求し、ユーザの部署とコストカテゴリ「PC1 - サポート」に再請求額を配賦します。

実行する手順

コストカテゴリの作成

- 1 コストカテゴリを表示します (ナビゲーションバーの [ポートフォリオ管理/コストカテゴリ] リンク)。
- 2 次の表に示すようにフィールドおよびリンクを使用して、レコードを作成します。

フィールドまたはリンク	値
名前(Name)	PC3 - サポート

3 Windowsクライアント:すべてのウィンドウを閉じます。

経費付替え規則への規則の追加

- 1 経費付替えシステムを表示します(ナビゲーションバーの [ファイナンス / 経費付替え / 経費付替えシステム] リンク)。
- 2 次のフィールドによって特定される経費付替えシステムの詳細を表示します。

フィールドまたはリンク	値
タイトル(Name)	PC1 - コンピュータの移設

- 3 [規則]タブを選択します。
- 4 次の表に指定されたフィールドおよびリンクを入力して、規則を追加します。

フィールドまたはリンク	值
タイトル(Name)	PC3 - サポート
規則適用(bEnabled)	はい
手動承認(bManual)	11117.
「全般」タブ	
タイマー(bOnTimer)	はい
コンテキスト(Context)	ポートフォリオ品目(amPortfolio)
フィルタ(Query)	PC1 - 管理部署コンピュータ
基準金額(seAmountRule)	フィールド
選択フィールド	Asset.mPrice
	注意:
	この値を入力できます。
	AssetCenterにより、入力した文字列に自動的 にピリオドが追加されます。
	他のフィールドやリンクを有効にする前に、 ピリオドを削除する必要があります。
係数(dMarkupCoef)	0.1
固定マージン(mFixedMarkup)	0.1 100
固定マージン(mFixedMarkup)	100
固定マージン(mFixedMarkup)	100 User.Parent
固定マージン(mFixedMarkup)	100 User.Parent 注意:
固定マージン(mFixedMarkup)	100 User.Parent 注意: この値を入力できます。 AssetCenterにより、入力した文字列に自動的
固定マージン(mFixedMarkup)	100 User.Parent 注意: この値を入力できます。 AssetCenterにより、入力した文字列に自動的にピリオドが追加されます。 他のフィールドやリンクを有効にする前に、
固定マージン(mFixedMarkup) 請求されるオブジェクト(ChargedRecord) [コストカテゴリ] フレーム 計算規則(seCostCatRule)	100 User.Parent 注意: この値を入力できます。 AssetCenterにより、入力した文字列に自動的にピリオドが追加されます。 他のフィールドやリンクを有効にする前に、ピリオドを削除する必要があります。
固定マージン(mFixedMarkup) 請求されるオブジェクト(ChargedRecord) [コストカテゴリ]フレーム	100 User.Parent 注意: この値を入力できます。 AssetCenterにより、入力した文字列に自動的にピリオドが追加されます。 他のフィールドやリンクを有効にする前に、ピリオドを削除する必要があります。

フィールドまたはリンク	值
計算規則(seCostCatRule)	データベースで選択
配賦先コストセンタ(TargetCostCenter)	User.Parent.CostCenter
	注意:
	この値を入力できます。
	AssetCenterにより、入力した文字列に自動的 にピリオドが追加されます。
	他のフィールドやリンクを有効にする前に、 ピリオドを削除する必要があります。
[配賦元コストセンタ] フレーム	
計算規則(seSrcCostCtrRule)	リストから選択
名前(コストセンタ)(SrcCostCenterId)	PC1 - 情報システム部
[タイマー]タブ	
前回の規則の実行(dtLastExec)	経費付替え規則の作成日付および時刻を残します。
日	日付指定
日	実用例を実施する日
月	実用例を実施する月
年	実用例を実施する年
実行時間	リストデータ
[リストデータ] の右側のフィールド	コンピュータによって表示される時刻
	例: 19:33

5 経費付替え規則の詳細を開けたままにします。

AssetCenter Serverの実行

- 1 AssetCenter Serverの起動
- 2 AssetCenterによって接続先データベースに接続します。
- 3 起動ウィンドウを表示します(「アクション/起動]メニュー)。
- 4 [定期的経費付替え規則をトリガ](CbkTimer)モジュールを選択します。
- 5 モジュールをトリガします(「**OK**])。
- 6 AssetCenterに戻ります。
- 7 経費付替え規則の詳細「PC3・サポート」が正しく表示されていることを確認 します。
- 8 「タイマー」タブを選択します。
- 9 [規則の前回の実行] (dtLastExec)フィールドを確認します。このフィールド には、「定期的経費付替え規則をトリガヿモジュールのAssetCenter Serverに よるトリガの日付および時間が設定されます。
- 10 Windowsクライアント:すべてのウィンドウを閉じます。
- 11 従業員と部署を表示します(ナビゲーションバーの「組織/従業員]リンク)。
- 12 次のレコードを選択します。

- 13 [コスト]タブを選択します。
- 14 経費付替え規則「PC3 サポート」によって自動的に作成された2つの経費明細(貸方と借方)がリストに表示されます。
 - これらの経費明細の詳細を調べます。
- 15 Windowsクライアント:すべてのウィンドウを閉じます。

7 用語解説

経費

会計年度

予算に関連する時間区分。

会計年度を、複数期間の集まり単位で区切ることができます。期間の集まりは期 間区分に相当します。

例

2003年会計年度

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

会計年度(SQL名:amFinancialYear)

期間区分

期間区分は、会計年度を複数の期間の集まり単位で分割する方法です。

同じ会計年度用に、複数の期間区分が存在することもあります(上半期/下半 期、四半期ごと、など)。

期間区分は予算分類と共に、予算の範囲を限定するために使用されます。

予算を期間区分に関連付けることにより、予算を間接的に会計年度に関連付けることになります。

例

- 2006年会計年度 半期
- 2006年会計年度 四半期

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

期間区分(SQL名:amFYDivision)

期間

期間区分の一部を成す1時間区分

期間区分の、ある期間の後に別の期間が開始するようになっており、期間が重複することはありません。

期間区分の複数の期間全体をまとめると、1会計年度になります。

例

2006年第1四半期

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

期間 (SQL名:amPeriod)

予算分類

予算分類 / 予算カテゴリ / コストカテゴリの階層構造の中で最も大きな分類単位 予算分類は予算カテゴリに区分されます。

予算分類は期間区分と共に、予算の範囲を限定するために使用されます。

例

「出張」予算分類は、以下の予算カテゴリに区分されます。

- 国内出張
- 海外出張

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

予算分類 (SQL名:amBudgClass)

予算カテゴリ

予算分類/予算カテゴリ/コストカテゴリの階層構造内で使用される中間の分類

予算カテゴリはコストカテゴリに区分されます。

予算カテゴリは、コストカテゴリよりも大きな単位で経費内容を分類します。

例

「国内出張」予算カテゴリは、以下のコストカテゴリに区分されます。

- 札幌出張
- 大阪出張

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

予算カテゴリ (SQL名: amBudgetCategory)

コストカテゴリ

予算分類 / 予算カテゴリ / コストカテゴリの階層構造の内の最小の分類単位 コストカテゴリは予算カテゴリにまとめられています。

コストカテゴリは、経費を分類するために使用されます。

経費明細をコストカテゴリに関連付けることができます。これにより、経費の内 容を管理できるようになります。

例

以下のコストカテゴリは、予算カテゴリ「国内出張」内にまとめられています。

- 札幌出張
- 大阪出張

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

コストカテゴリ (SQL名: amCostCategory)

予算

予算では収入と支出を以下の要素の組み合わせで区分して管理します。

- 期間区分(例えば1財政年度に当たります。) これにより予算の会計年度を定義できます。
- 予算分類

予算は予算センタ内で作成されます。

例

- 2006年の予算割当
- 2006年のハードウェア購入

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

予算(SQL名:amBudget)

コストセンタ

コストセンタは、企業の各部署の経費全体をまとめ、管理するために使用されます。

予算管理を実行する場合、各コストセンタは予算センタに属する必要があります。

例

- 情報システム部
- 東京本社営業

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

コストセンタ (SQL名: amCostCenter)

予算センタ

予算センタは予算とコストセンタから構成されます。

予算センタの範囲は、ある期間の特定の内容の経費によっては限定されません。 特定の期間の特定の内容の経費に関連付けられるのは予算です。

予算センタを使用すると、コストセンタのセットに対して経費を計画およびトラッキングすることができます。

例

研究開発予算センタには以下の9つの予算があります。

2004年出張	2004年機材購入	2004年研修	
2005年出張	2005年機材購入	2005年研修	
2006年出張	2006年機材購入	2006年研修	

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

予算センタ (SQL名: amBudgCenter)

経費明細

経費の完全な詳細(貸方、借方、日付、税金など)

例

以下の要素をもとに経費明細が作成されます。

- 購入
- 作業指示
- 経費付替え
- ■研修
- 賃貸料

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

経費明細(SQL名:amExpenseLine)

通貨

金額値の表記に使用される通貨。

例

- ユーロ
- ▶ ドル

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

通貨(SQL名:amCurrency)

為替レート

2通貨間の為替レート。

為替レートは、金額値を複数の通貨に換算する際に使用されます。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

為替レート (SQL名: amCurRate)

減価償却

減価償却

資産の減価償却では、資産の価値の減少を費用として算入します。

AssetCenterでは固定資産の経理上の減価償却を推算できます。

これは見積り算定に過ぎません。AssetCenterは、法律上の目的で使用される情報を含む会計ソフトウェアの代用は果たしません。

しかし、AssetCenterデータベースの情報を会計ソフトウェアの情報と比較することも有用です。これは、AssetCenterを使用する資産管理者のほうが、固定資産の 状況をより正確に把握することができるからです。

AssetCenterでは以下の内容を定義または計算できます。

- 減価償却方法(定額法、定率法、耐用年数)
- 減価償却基準
- 減価償却金額
- 残存価額

例

- 定額法による減価償却
- 定率法による減価償却

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

- 資産(SQL名:amAsset)
- 固定資産(SQL名:amFixedAsset)

固定資産

企業が使用する高価な資産を指します。固定資産は、減価償却の対象となり得ます。

AssetCenterは固定資産を記録しますが、会計ソフトウェアの代用は果たしません。

AssetCenterデータベースの情報を会計ソフトウェアの情報と比較することも有用です。これは、AssetCenterを使用する資産管理者のほうが、固定資産の状況をより正確に把握することができるからです。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

固定資産(SQL名:amFixedAsset)

税金

税区分

同一の税率が適用される税区域を指します。

例

多くの場合、税区分は地理上の区分と同一です。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

税区分(SQL名:amTaxJuris)

税金

国家や地方自治体が一定の出費から徴収する金額。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

- 資産の賃貸料 (SQL名: amAssetRent)
- 契約賃貸料(SQL名:amCntrRent)
- 発注明細(SQL名:amPOrdLine)
- 請求明細(SQL名: amInvoiceLine)
- 依頼明細 (SQL名: amRegLine)
- 経費明細(SQL名:amExpenseLine)
- 資産(SQL名:amAsset)
- 調整項目(SQL名: amAdjustment)
- 契約 (SQL名: amContract)
- サプライヤの請求書(SQL名: amInvoice)
- 発注(SQL名:amPOrder)
- 依頼(SQL名:amRequest)
- 研修(SQL名:amTraining)
- 作業指示(SQL名:amWorkOrder)

税率

ある税区分の税金の計算に使用されるパーセンテージ。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

税率(SQL名:amTaxRate)

税金の計算式

税金金額を計算するために使用されるスクリプト。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

税金の計算式 (SQL名:amTaxFormula)

TCO

TCO

Total Cost of Ownershipは、設備/備品(一般的にコンピュータ)の所有にかかる年間の総コストを指します。

TCOにはハードやソフトウェアの購入価格、メンテナンス費、アップグレードの費用、またコンピュータの管理に必要な人件費や設備費(ホットライン、ヘルプデスク、修理、アシスタントなど)が含まれます。

経費付替え

経費付替え

配賦元コストセンタから配賦先コストセンタに、経費を再び配賦することを指します。

例

■ メンテナンスコストの経費付替え

経費付替えシステム

経費付替え明細の生成を自動化する経費付替え規則の集合。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

経費付替えシステム (SQL名: amCbkSystem)

経費付替え規則

経費明細を生成する以下のパラメータの集合

- トリガ条件
- 配賦元コストセンタと配賦先コストセンタ
- 経費付替え金額の計算方法

経費付替えシステムが経費付替え規則を導入します。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

経費付替え規則(SQL名:amCbkRule)

経費付替えスクリプト

経費付替え明細の金額を計算するために経費付替え規則が使用するスクリプト。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

経費付替えスクリプト (SQL名:amCbkScript)

経費付替えイベント

経費付替え規則が自動的に発生させる経費付替えの原因。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

経費付替えイベント(SOL名:amCbkStoredEvent)

分割処理

1つの経費明細を、複数のコストセンタに分割して配分することを指します。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

コストセンタの分割処理 (SQL名:amCCSplit)

分割処理規則

分割処理規則は経費付替え規則内で使用されています。分割処理規則は、複数の コストセンタ間で経費を分割配分する方法(どのコストセンタにどのパーセン テージを割り当てるか)を定義します。

このオブジェクトを記述するAssetCenterデータベースのテーブル

分割処理規則(SQL名:amCbkSplitRule)

インデックス

インストールするモジュール, 59	会計年度
コスト	はじめに, 23
(参考 TCO)	定義, 91
(参考 コストセンタ)	換算額
コストカテゴリ	(参考 変換)
はじめに, 21	換算通貨 (メニュー) , 15
定義, 93	期間
コストセンタ	はじめに, 21
(参考 分割処理)	定義, 92
はじめに, 25	期間区分
外部アプリケーションとの関連付け, 31	はじめに, 23
定義, 94	定義, 91
データベース	金額 (参考 金額値)
準備, 59	金額フィールド, 14
専門分野データ - インポート	金額値, 11-20
既存データベース, 60	(参考 通貨)
新規データベース, 59	経費, 21-37
ライセンス, 59	(参考 経費明細)
レート (参考 為替レート)	(参考 予算)
為替レート, 13	概要, 21
データの入力, 13	経費付替え
ヒント, 14	(参考 経費付替えシステム)
ユーロ, 13	システム - 作成, 74
逆レート, 13	概要, 73
定義, 95	実用例, 77

前提, 73	定義, 97
定義, 98	税率のタイプ, 45
未解決のイベント, 75	専門分野データ, 60 , 59
経費付替えイベント, 99	前提, 59
経費付替えシステム, 98	調達 - 税金, 55
経費付替えスクリプト, 99	賃貸料 - 税金, 51
経費付替え規則	通貨, 11
定義, 98	デフォルトの通貨, 12
経費明細, 31	ユーロ, 12
AssetCenterサーバによる自動計算, 33	基本通貨, 12
作成, 32	準備段階, 12
詳細, 32	制限, 19
定義, 95	定義, 95
分割処理, 33	分割処理
変更, 33	(参考 分割処理規則)
減価償却	コストセンタ - 削除, 36
(参考 固定資産)	概要, 34
固定資産, 39-41	金額 - 変更, 35
会計ソフトウェアとの関連付け, 39	計算, 35
詳細, 40	自動化, 35
定義, 96	詳細, 35
場所 - 税金, 49	注意事項, 35
税金, 43-56	定義, 99
(参考 税区分)	分割処理のステータス (フィールド) , 36
アプリケーションのドメイン, 43	分割処理規則, 99
概念, 44	変換
原価計算の実行, 48	(参考 換算額)
実用例, 46	予算, 26
場所 - リンク, 49	インプリメンテーション, 26
税区分, 49	トラッキング, 30
調達, 55	はじめに, 21
賃貸料, 51, 49	実用例, 26
固定税金, 51	定義, 93
税金の計算式, 51	予算カテゴリ
率 - 変更, 55	はじめに, 21, 21
定義, 97	定義, 93
税金の計算式	予算センタ
はじめに, 45	はじめに, 23
定義, 98	定義, 94
税区分	予算分類
はじめに, 44	はじめに, 22
税金, 49	定義, 92
定義, 97	
税率	
はじめに, 45	

Α

AssetCenter Database Administrator 専門分野データ - インポート 既存データベース, 60 新規データベース, 59

Т

TCO 含まれているコスト, 57 定義, 98 Total Cost of Ownership (参考 TCO)